

令和 7 年度 教育計画書

令和 7 年 4 月 1 日

徳島県立農林水産総合技術支援センター
農業大学校（本科）

目 次

1 教育目標、教育方針

- (1) 教育目標 1
- (2) 教育方針 1

2 教育の方法

- (1) コース制 2
- (2) 基礎から高度・専門、応用にいたるカリキュラム編成 2
- (3) プロジェクト課題解決学習 3
- (4) 学生自治会活動の積極的支援 3
- (5) 模擬会社「徳島農大そらそうじゃ」による経営実践学習 3
- (6) 科目間の相互関係（カリキュラムマップ） 5
- (7) 実践学習体系（コース実習、模擬会社、学生自治会） 7

3 修学達成度の把握と学校関係者評価

- (1) 修学達成度の把握 9
- (2) 学校評価 9

4 多様な進路に対応した指導体制

- (1) 早期からの進路指導 10
- (2) 農業の担い手、地域農業のリーダー育成 10
- (3) 食品産業等農業関連企業への就職支援 10
- (4) 4年制生大学への編入学対応 10

5 科目履修表・授業計画（シラバス）

- (1) 1年次生（令和7年度入学生適用） 12
- (2) 2年次生（令和6年度入学生適用） 23
- (3) 指定科目（資格取得教科） 31
- (4) 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表 32

6 沿革、学校施設、ほ場図等

- (1) 沿革 38
- (2) 学校施設、ほ場図 39

7 添付資料等

- (1) 徳島農大そらそうじゃ定款 40
- (2) 徳島県立農林水産総合技術支援センター農業大学校学校評価実施要領 43
- (3) 農業・6次産業体験学習等実施要綱 44

1 教育目標、方針

(1) 教育目標

農産物の生産から加工、販売までの実践を中心とした農業教育を通じ、幅広い教養と農業及び食料に関し深い理解と熱意を持った農業及びその関連産業の担い手を育成する。

(2) 教育方針

①自主性の育成

自ら課題を設定し、自主的にプロジェクト課題解決学習に取り組むことで、意欲と実行力のある人材を育成する。

②仲間づくり

互いに協力しあいながら実習や集団活動等に取り組むことで、自律と協調の精神を養う。

③実践学習

講義、演習で得た知識を活かし、実践学習へ発展させることで、問題解決能力を養成する。

④マンツーマン指導

個性や進路希望等をふまえた濃密な指導により、学生個々の目標実現を支援する。

⑤コーディネータの養成

地域社会・経済や人々の考え方、技術を結びつけることで、地域振興や新たな取り組みにつなげるコーディネート能力を養成する。

⑥地域農業等への寄与

先進農家、関係機関や団体及び農業・食品関連産業等との連携を深め、総合的な指導体制により、幅広い視野と経営能力を有する地域産業や農村生活のリーダーを養成する。

2 教育の方法

(1) コース制

① 2 コース制

学生は「農業生産技術コース」、「6次産業ビジネスコース」のいずれかに所属し、各コースの人材育成目標に沿った科目履修、プロジェクト課題解決学習活動に取り組む。

② 農業生産技術コースの人材育成目標

高度・専門的な農業生産技術を習得し、技術改善や新技術の導入等により地域農業を先導しうる経営感覚に優れた農業経営者の育成を目指す。

③ 6次産業ビジネスコースの人材育成目標

農産物の生産管理に加え、高付加価値化のための加工や多様な販売戦略等広範囲な知識と高度な経営感覚を有し、地域経済の創造に貢献しうる多様な人材の育成を目指す。

(2) 基礎から高度・専門、応用にいたるカリキュラム編成

① 基礎学習

1年次生前期を基礎学習期間とし、農業学習に必要な言語力や計算力、社会性の醸成に資する教養科目及び農業生産管理に必要な基礎的知識を習得する。

② 発展学習

1年次生後期から2年次生前期を発展学習期間とし、基礎的分野の講義・演習で得られた知識を基礎に、専門的な農業生産技術及び各コースが目指す人材育成目標に沿った選択科目の履修と体験学習及び課題解決学習に取り組み、問題解決能力の養成につなげる。

③ 総括学習

2年次生後期を総括学習期間とし、高度・専門的な知識、地域社会・経済及び組織運営の理解を深める。

④ 資格取得講座（指定科目）

指定科目や特別講義により、大型特殊自動車免許・けん引免許（農耕用限定）、家畜人工授精師・家畜商、危険物取扱者、毒物劇物取扱者、農業技術検定（2・3級）、フォークリフト運転技能資格、食の6次産業化プロデューサー（レベル2）、土壤医（2・3級）、狩猟免許、パソコン検定、TOEIC等の資格取得を支援する。

⑤ 科目間の相互関係（カリキュラムマップ）及び授業計画（シラバス）

基礎から発展、総括に至る履修科目は、各科目の履修内容の理解と修得の助長を考慮した配置（カリキュラムマップ）と授業計画（シラバス）により、学生の修学意欲の維持と向上を目指す。

<別添> 科目履修表・授業計画（シラバス）

(3) プロジェクト課題解決学習

①プロジェクト課題解決学習のねらい

講義や演習で得た知識を実習で体験し、学習過程と論文のとりまとめを通じ“生きた知見”として修得するとともに、論理的な思考力や深い洞察力、鋭い観察眼、実習に取り組む忍耐力等を培い、将来、様々な問題に直面したときの問題解決能力を養成する。

②プロジェクト課題解決学習の手法

学生自身が、将来ビジョンの実現に向け自ら課題を設定し、課題解決の具体的計画を作成し、遂行する課程（体験）を通じ知識と技能を修得する学習方法である。

目標は自家農業や地域農業、経済、社会に至る問題分析を行い、将来の地域農業、地域経済・社会への貢献を目指し設定する。

目標設定にあたり、現状の問題分析による課題設定にとどまらず、将来のあるべき姿と現状との乖離を課題として設定する“現状突破型（ブレイクスルー）”の目標設定に努める。

実践段階では計画（Plan）、実践（Do）、評価（Check）、行動（Action）の過程について「プロジェクト・マネジメント」手法を活用し、進捗管理する。

計画は農業大学校の設備、修学年数で達成可能な“仮説”と“検証”を基本とするが、課題や目標が大きい場合には、徳島県立農林水産総合技術支援センター各担当や外部協力者の支援を得ながら、広範囲、長期にわたる課題設定も可能とする。

学習の初期、実践段階の時期に「計画発表会」、「中間検討会」でプレゼンテーションし、得られた意見や助言をふまえ「卒業論文」としてとりまとめたのち、「成果発表会」で生計維持者、関係者、学生及び職員に対し発表する。

(4) 学生自治会活動の積極的支援

農大祭や四国農業大学校スポーツ大会、収穫祭等は学生自治会が主催する行事だが、“仲間づくり”や“自律と協調の精神”を養い、他者との関わりを通じ“社会性の養成”を促す効果が認められるため「学校行事」と位置づけ、積極的に支援する。

(5) 模擬会社「徳島農大そらそうじゃ」による経営実践学習

①模擬会社設立の目的

社名の「そらそうじゃ」は徳島地方の言葉で“同意と共感”を意味する。

事業計画に基づき、学生がリスクを背負い、利益を追求することで、緊張感と達成感のある経営者育成手法を実践する場所とし、平成22年10月25日設立された。

学生の実習やプロジェクトを事業活動とみなし、学生同士並びに学生と地域の1次、2次、3次事業者と“同意と共感”にもとづく連携を通じ6次産業化を進め、その過程を体験することで起業（企業）家精神と様々なビジネススキル、社会性（リーダーシップ、フォロワーシップ）を養成する目的がある。

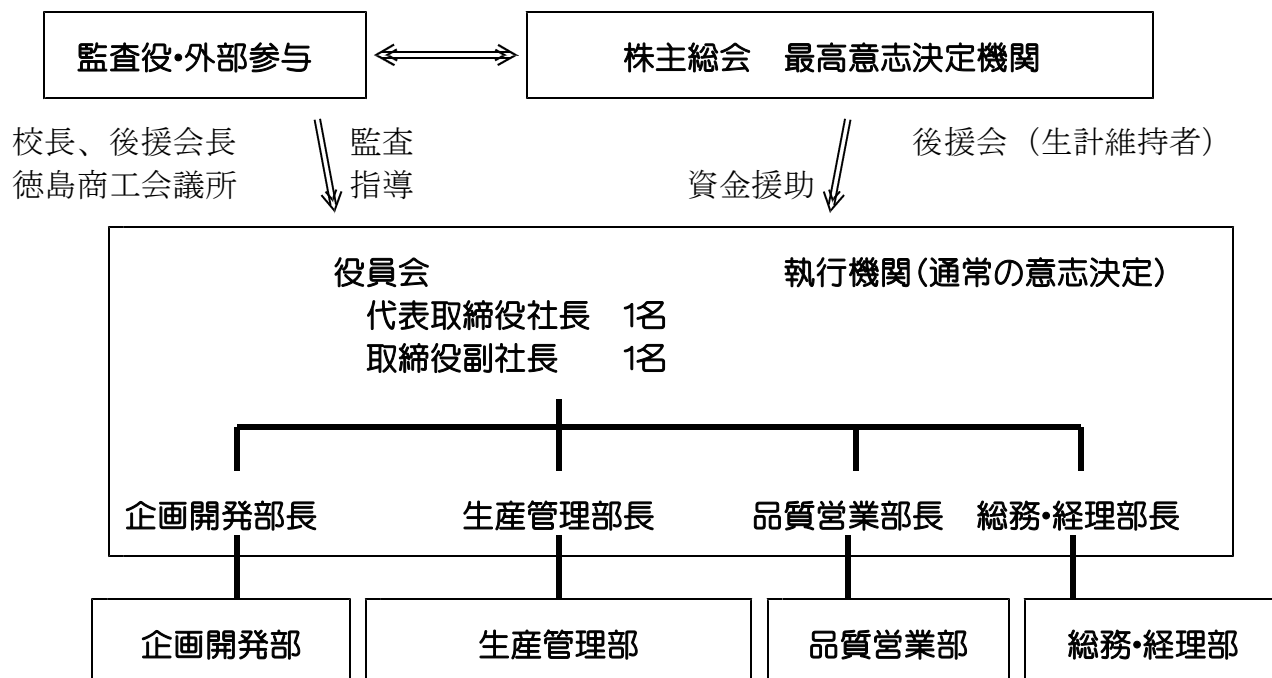
②経営理念と事業内容

会社活動は日常の学習・実習やプロジェクト活動と一体的に行うことから、その成果を“商品”とみなしている。したがって“商品”は農産物や加工品など形のあるものば

かりでなく、収穫作業や農作業体験等のサービス、新技術の開発と地域への提案、実証展示等も“商品”として地域社会へ波及することを経営理念に持ち、事業内容としている。

③機関構成

○徳島農大そらそうじゃ 組織図（令和6年度～）



④各部局の責任分担と主な役割

○役員会

対外的に社を代表して活動し、事業活動のとりまとめ、通常意志決定を行う。

○企画開発部

独創性、創造性を重視し、新たな価値の創造を目指した活動を行う。

○生産管理部

生産活動の環境整備と工程管理を行い、品質の維持と向上並びに生産量の確保を目指す。

○品質営業部

顧客の視点で商品化やサービスのあり方を考え、売れる仕組みをつくる。

○総務・経理部

粗利や経費等の資金の流れをフローで情報化し、経営資源を有効活用する。

⑤模擬会社の事業活動と代表者に関する規程

模擬会社「徳島農大そらそうじゃ」の事業活動は、教育活動の範疇で行うことから、あらかじめ定められた「定款」と「規約」に基づき行う。

「定款」は、事業展開及び学生の活動を規程するものとして定める。

「規約」は、学生に加え、徳島商工会議所、後援会（生計維持者）及び農業大学校職員から構成され、対外的な契約や事業展開時の信頼性、教育効果を保証するため定める。

<別添> 徳島農大そらそうじゃ定款（平成22年10月25日作成）

(6) 科目間の相互関係 (カリキュラムマップ) ※【 】内は、授業時間を示す。

履修目的		1年次生(令和7年度)	
		前 期 基礎学習期	後 期 発展学習期
教養	視野を広め、幅広い人間性を醸成する。	選択 英語Ⅰ [30] 進学英語Ⅰ [30] 選択 生物 [(30)] 補講 基礎計算 [(16)]	小論文 [30] 選択 英語Ⅱ [30] 進学英語Ⅱ [30] 化学 [(30)] キャリア形成 [8] ビジネスマナー [16]
		体育 (選択: 卓球・バレーボール・バドミントン) [30] 特別講義 (農業法人交流会、その他) [29] 必須 集団活動 (校外研修、農大祭、その他) [70]	語学力や計算力、基礎学力を高め、発展学習に備える。
栽培・飼養管理	農業生産技術の基礎から専門まで幅広く学ぶ。	農業基礎 [16] 作物 [30] 野菜園芸 [30] 果樹園芸 [30] 花き園芸 [30] 農業機械学 [16] 畜産 [30]	植物防疫学 [30] 土壌肥科学 [16] 実用計算 [16] 農業簿記 [20]
		卒論演習Ⅰ [16] 基礎演習 農学実験 (植物・動物の観察、土壌分析他) [20] 情報処理 (データ整理、文書作成、プレゼンテーション他) [20] 作業演習 (農業機械等の利用と整備他) [20]	農業技術や経営の基礎を学び、実践的な課題解決力の習得につなげる。
食品・流通	農産物の価値や流通を学び、理解を深める。	農業・食品加工基礎実習 [32]	食品栄養・機能学 [30] 農産物・食品流通特論 [16]
経営			6次産業化概論 [16]
社会・経済	経営の基礎から専門、地域社会・経済まで幅広く学ぶ。		地域農業 [16]
選択／農業生産	農業生産に関する深い知識と実践経験を積む。	必須 農業体験学習 [4] 必須 コース実習Ⅰ [144]	スマート農業 [16] ドローン講習 [30] 必須 農業体験学習 [68] 必須 コース実習Ⅱ [292]
選択／6次産業	6次産業に関する深い知識と実践経験を積む。	食品加工実習 [16] 必須 6次産業体験学習 [4] 必須 コース実習Ⅰ [128]	食品加工学 [16] 食品衛生学 [30] 必須 6次産業体験学習 [68] 必須 コース実習Ⅱ [292]
指定科目・資格取得		パソコン検定対策講座 [20] 英語試験対策講座Ⅰ [16] 家畜人工授精師 [140] 家畜商 [16]	危険物取扱者 [16] 農業機械実習 [32] 毒物劇物取扱者 [16] フォークリフト実習 [48] 農業技術の基礎 [16] 狩猟免許対策講座 [8] 土壌医試験対策講座 [16]

2年次生(令和8年度)		人材育成目標
前期 発展学習期	後期 総括学習期	
進路キャリア支援 [24]	豊かな人間性と社会規範をもつ人材を養成する。	
体育(選択:卓球・バレーボール・バドミントン) [30]		
特別講義(農業法人交流会、その他) [19]		
必須 集団活動(農大祭、学生自治会活動、その他) [50]		
野菜栽培各論 [30] 果樹栽培各論 [30] 花き栽培各論 [30] 家畜飼養管理 [30] 植物生理学 [30]	農業気象学 [16] 高度技術演習 [16] 特産物生産 [16] 授業で得られた知識と実践学習を統合し、問題解決能力の養成を図る。	農業技術者として、成長し続けるための礎を築く。
卒論演習Ⅱ [30] 農業技術や経営、食品流通等の発展的な学習により、高度・専門的な知識を深める。		
食の安全・安心 [16]		農業技術にとどまらず、食品流通や地域社会、経済に対する幅広い視野を有する人材を育成する。
マーケティング論 [16]		
経営戦略論 [16]	農業経営と組織論 [30] 地域経済論 [16] 農業政策 [30] 環境と農業 [30] 農業と組織、地域社会との関わりへの認識を深める。	
GAP演習 [16] 必須 農業体験学習 [36] 必須 コース実習Ⅲ [244]	必須 卒業論文 [120] 必須 コース実習Ⅳ [332]	技術改善や新技術の導入等により地域農業を先導しうる経営感覚に優れた農業経営者を育成する。
HACCP演習 [16] 新ビジネス創造 [16] ※生産コース受講可 必須 6次産業体験学習 [36] パッケージデザイン [16] 必須 コース実習Ⅲ [220]	必須 卒業論文 [120] 食品産業特別講義 [16] 必須 コース実習Ⅳ [308]	加工や多様な販売戦略等広範囲な知機と高度な経営感覚を有し、地域経済の創造に貢献しうる人材を育成す
	危険物取扱者 [16] 毒物劇物取扱者 [16] 農業技術の基礎 [16] 英語試験対策講座Ⅱ [16] 農業機械実習 [36] フォークリフト実習 [48] 狩猟免許対策講座 [8] 土壌医試験対策講座 [16]	各種資格を取得し、進路選択の幅を広げる。

(7) 実践学習体系（コース実習、模擬会社、学生自治会）

履修区分・目的		1年次生	
		前期 基礎学習期	後期 発展学習期
科目編成	基礎から高度、専門、応用に至る編成	○農業学習に必要な言語力や計算力、社会性の醸成に資する教養科目 ○農業生産管理に必要な基礎的知識を修得する講義、演習	○高度・専門的な農業生産技術、6次産業化の進展に向けた講義・演習 ○各コースが目指す人材育成目標に沿った選択科目及び体験学習
	実習区分	コース実習Ⅰ	コース実習Ⅱ
コース実習	講義や演習で得た知識を実習で体験し、生きた知見として修得	基本的な農作物や家畜の栽培・飼養管理、食品加工体験を通して、農業との関わり方を明確にする。 農業生産技術コース 農業技術の深化に関するプロジェクト課題の探索 6次産業ビジネスコース 6次産業化の進展に関するプロジェクト課題の探索 農業との関わり方と将来ビジョンの明確 多種多様な農作物・家畜、食品加工等の基礎的技術習得 安全ルールを遵守した作業管理 農作物・家畜の観察 コース配属 各担当部署の役割を理解 企画開発部 品質・農場管理部 営業部 総務・経理部 修得したいスキルを自ら選択	高度・専門的な農作物や家畜の栽培・飼養管理、食品加工の実践を通して技術習得と感覚を醸成する。 農業生産技術コース 農業技術の深化に向けたプロジェクト課題への取り組み 6次産業ビジネスコース 6次産業化の進展に向けたプロジェクト課題への取り組み 将来ビジョンの実現に向けた課題設定と計画作成「現状突破型(ブレイクスルー)目標」の設定 コースで栽培・飼養する農作物・家畜等の管理作業の修得 安全・効率的な作業手順と役割分担の構築 問題の現状分析と課題の明確化 計画発表プレゼンテーション演習 模擬会社の運営体制を反映した実習 模擬会社商品化検討 株主総会の開催 新年度事業、新役員決定 日常の実習に会社組織運営の視点
模擬会社	日常の実習を会社活動とみなし、一体的に活動		
		サークル活動 新商品開発サークル等(自主的な模擬会社活動) スポーツサークル	
学生自治会	集団活動を学校行事と位置づけ、積極的に支援	総会 新入生歓迎会 四国農学連総会	スポーツ大会 農大祭 収穫祭 意見発表会 卒業祝賀会
		入学式 三者面談 校外研修 後援会総会 三者面談 校外コース別研修	計画発表会 体験学習 第1回・6次産業 体験学習 第2回・6次産業
主な学校行事			

2年次生(令和8年度)		ねらい
前 期 発展学習期	後 期 総括学習期	
○高度・専門的な農業生産技術、6次産業化の進展に向けた講義・演習 ○模擬会社と関連した講義・演習 コース実習Ⅲ 実践	○高度・専門的な知識と地域社会・経済、組織運営への理解を深める講義・演習 ○模擬会社の運営と関連した総括学習 コース実習Ⅳ 実践	講義や演習で得た知識を実習で体験し、学習過程と論文とりまとめを通して“生きた知見”として修得
互いに協力し合いプロジェクトや模擬会社の目標達成に向け粘り強く実践するとともに、幅広く作業体験を積み重ねる。 農業生産技術コース 農業生産技術の改善に関する問題解決の視野を拡大 6次産業ビジネスコース 6次産業化の進展に関する問題解決の視野を拡大 Plan、Do、Check、Actionの過程を進捗管理「プロジェクト・マネジメント」手法の活用 プロジェクト課題品目の栽培・飼養管理技術の習得 安全で効率的な作業手順を1年次生へ助言 調査研究、データ収集等進捗管理と達成状況の把握 中間発表プレゼンテーション 模擬会社体制を反映した運営方法を1年次生へ助言 商品化技術課題の地域波及方法の検討 企画、製造等の作業工程管理、流通販売戦略の検討 プロジェクトの成果≡模擬会社商品	プロジェクトの実践過程や得られた成果のとりまとめを通して、卒業後、社会で必要とされる問題解決能力を養う。 農業生産技術コース 成果の自家農業への導入検討や地域農業への提案 6次産業ビジネスコース 成果の自家経営や地域農業、地域産業への普及・貢献方法の提案 論理的な思考力、深い洞察力、鋭い観察眼及び忍耐力の養成 プロジェクトの総括と振り返り 得られた知見や感覚の発展応用の検討 中間検討及び成果発表演習 他者の発表に対する適正な評価の視点 卒業提出 模擬会社 株主総会 チームで働き、目標を達成	将来、様々な困難に直面したときの問題解決能力を養成 6次産業化の過程を体験し、起業(企業)家精神と様々なビジネススキル、社会性を養成
新商品開発サークル等(自主的な模擬会社活動) スポーツサークル		
総会 新入生歓迎会 四国農学連総会	スポーツ大会 農大祭 収穫祭 卒業祝賀会	“仲間づくり” “自律と協調の精神” “社会性”を養成
第3回体験学習・6次産業 体験学習発表会・6次産業発表会 校外研修コース別	中間発表会 成果発表会 卒業式	

3 修学達成度の把握と学校関係者評価

(1) 修学達成度の把握

①修学達成度自己評価手法の導入

プロジェクト活動、卒業論文、コース実習等について、学生個々が自己目標を設定し、自己採点することにより修学達成度を把握し、指導職員との認識を共有しながら修学過程を積み重ね、根拠ある達成感の醸成につとめる。

②成績評価手法

成績評価は、新たに客観的指標としてG P A (Grade Point Average) 手法を導入し、令和2年度入学生より適用する。

G P A手法の導入により、農業大学校教育の特色であり、総履修時間と単位数に大きなウェイトを占める実習やプロジェクト学習等の評価を従来よりも重視した成績評価にするとともに、学生個々が農業大学校の履修目標に対する達成度を客観的に把握することで、達成感並びに修学意欲の維持と向上につなげる。

G P Aの算出方法は、成績評価の素点をグレードポイント (G P) に変換し、これに当該科目の単位数を乗じてその総和を履修総単位数で除して得られた値とする。

G P Aは不合格となった科目も含め算出し、小数点第3位を四捨五入し表記する。

なお、G P Aは個々の学生が農業大学校の履修目標に対する達成度を示すものであり、学生の成績順位を算出する手法ではないことから、当面の間、成績評価は従来の各科目の素点を単位数で加重平均した値を併用する。

素点と評価、G P (G r a d e P o i n t)

素点	評価	成績書記載	G P
90～	A	特に優れている	4
80～89	B	優れている	3
70～79	C	合格基準に達している	2
60～69	D	更なる努力が必要	1
～59	E	不合格 (不認定)	0

(2) 学校評価

①基本的な進め方

平成24年度より「学校評価システム」を導入し、教育活動その他の学校運営の状況について自ら評価を行い、P D C Aサイクルに基づき年度当初に学生の学習面及び生活面並びに学校運営の実情を分析し、重点目標・課題・活動計画・評価指数を設定する。

実践段階においては様々な評価指標を用い目標の進捗状況や取り組みの適正を日常的にモニタリングする。

年度末には学生及び職員によるアンケートにより、評価指標の達成度と活動の実施状況について総括的に評価を行い、次年度の課題につなげる。

②令和7年度重点目標

重点目標①多様な進路に応じた人材育成

重点目標②地域農業への寄与

<別添> 徳島県立農林水産総合技術支援センター農業大学校学校評価実施要領

4 多様な進路に対応した指導体制

(1) 早期からの進路指導

入学当初から進路アンケートや三者面談を行い、早期から進路に対する意識を深める。

(2) 農業の担い手、地域農業のリーダー育成

ハローワーク研修、農業体験学習、農業法人との交流会、農業法人へのインターンシップ等の機会を有効活用し就農を支援する。

(3) 食品産業等農業関連企業への就職支援

ハローワーク研修、6次産業体験学習、インターンシップ等の機会を有効活用し、食品産業や農業関連産業への就職を支援する。

(4) 4年制大学への編入学対応

4年制大学への編入試験対策と進学後の単位認定に供するため、進学英語Ⅰ・Ⅱ、化学、生物を選択科目にするとともに、入試に関する情報を共有し、補習や模擬面接を積極的に行う。

令和7年度 進路指導、学校評価関係 年間実施計画

1年次生	4月	作文「農大生活について」「農大卒業後について」提出 進路・資格希望調査 三者面談
	5月	後援会総会・三者面談（コース配属決定）
	7月	進路・資格希望調査 前期授業評価
	8月	課題作文「将来のビジョン」
	9月	進路・資格希望調査
	10月	学校評価中間アンケート 農業法人説明会
	12月	ハローワーク研修 四国農学連意見発表会
	1月	第1回 農業体験学習／6次産業体験学習 後期授業評価
	2月	学校評価アンケート
	3月	第2回 農業体験学習／6次産業体験学習 就職・企業エントリースタート

2年次生	4月	進路・資格希望調査
	5月	後援会総会・三者面談 ハローワーク研修
	6月	農業法人との交流会・就農相談 第3回 農業体験学習／6次産業体験学習
	7月	進路・資格希望調査 前期授業評価
	9月	進路・資格希望調査
	10月	学校評価中間アンケート
	1月	後期授業評価
	2月	学校評価アンケート

※上記以外にも個別面談、模擬面接、進路相談・助言等を適宜実施

<別添>農業・6次産業体験学習実施要綱

本教育計画書は、内容を変更する場合がある。

5 科目履修表・授業計画（シラバス）

(1) 1年次生（令和7年度入学生適用）

①科目履修表

区分	1年次生(令和7年度)								2年次生(令和8年度)							
	前 期				後 期				前 期				後 期			
	科目名	時間	単位	EC	科目名	時間	単位	履修方法	科目名	時間	単位	履修方法	科目名	時間	単位	履修方法
教養	英語Ⅰ(英会話)	30	2.0	講義・演習	小論文	30	2.0	演習	進路キャリア支援	24	1.5	演習				
	進学英語Ⅰ			講義	英語Ⅱ(英会話)	30	2.0	講義・演習								
	生物(進学)	(30)	(2.0)	講義	進学英語Ⅱ			講義・演習								
	基礎計算(補講)	(16)	—	演習	化学	(30)	(2.0)	講義								
					キャリア形成	8	0.5	講義・演習								
					ビジネスマナー	16	1.0	講義・演習								
	体育(卓球、バレーボール、バドミントン)				30	1.0	実技	体育(卓球、バレーボール、バドミントン)				30	1.0	実技		
	特別講義				30	2.0	講義・演習	特別講義				18	1.0	講義・演習		
	集団活動(必須)				70	2.0	実習	集団活動(必須)				50	1.5	実習		
	教養科目計(補講、生物、化学含めず)				244	12.5		教養科目計				122	5.0			
栽培 飼養 管理	農業基礎	16	1.0	講義	植物防疫学	30	2.0	講義	野菜栽培各論	30	2.0	講義	農業気象学	16	1.0	講義
	作物	30	2.0	講義	土壤肥科学	16	1.0	講義	果樹栽培各論	30	2.0	講義	高度技術演習	16	1.0	演習
	野菜園芸	30	2.0	講義	実用計算	16	1.0	講義	花き栽培各論	30	2.0	講義	特産物生産	16	1.0	講義
	果樹園芸	30	2.0	講義	農業簿記	20	1.0	講義・演習	家畜飼養衛生	30	2.0	講義				
	花き園芸	30	2.0	講義					植物生理学	30	2.0	講義				
	農業機械学	16	1.0	講義												
	畜産				30	2.0	講義									
	卒論演習Ⅰ				16	1.0	演習	卒論演習Ⅱ				30	2.0	演習		
	基礎演習(農学実験)				20	1.0	講義・演習									
	基礎演習(情報処理)				20	1.0	講義・演習									
基礎演習(作業演習)				20	1.0	講義・演習										
食品 流通	農業・食品加工基礎実習	32	1.0	実習	食品栄養・機能学	30	2.0	講義	食の安全・安心	16	1.0	講義				
					農産物・食品流通特論	16	1.0	講義								
経営					6次産業化概論	16	1.0	講義	マーケティング論	16	1.0	講義				
					地域農業	16	1.0	講義	経営戦略論	16	1.0	講義	農業経営と組織論	30	2.0	講義
社会 経済													地域経済論	16	1.0	講義
													農業政策	30	2.0	講義
													環境と農業	30	2.0	講義
	専門(共通)科目計				450	27.0		専門(共通)科目計				382	25.0			
選択 ／ 農業 生産					スマート農業	16	1.0	講義・演習	GAP演習	16	1.0	講義	卒業論文(必須)	120	8.0	演習
					ドローン講習	30	2.0	講義・演習								
	農業体験学習(必須)	4	0.0	実習	農業体験学習(必須)	68	2.0	実習	農業体験学習(必須)	36	1.0	実習				
	コース実習Ⅰ(必須)	144	4.5	実習	コース実習Ⅱ(必須)	308	10.0	実習	コース実習Ⅲ(必須)	244	8.0	実習	コース実習Ⅳ(必須)	358	11.5	実習
選択(農業生産技術コース)科目計				570	19.5		選択(農業生産技術コース)科目計				774	29.5				
選択 ／ 6次 産業	食品加工実習	16	0.5	実習	食品加工学	16	1.0	講義	HACCP演習	16	1.0	講義・演習	卒業論文(必須)	120	8.0	演習
					食品衛生学	30	2.0	講義・実験	新ビジネス創造	16	1.0	講義・演習	食品産業特別講義	16	1.0	講義・演習
	6次産業体験学習(必須)	4	0.0	実習	6次産業体験学習(必須)	68	2.0	実習	6次産業体験学習(必須)	36	1.0	実習				
									パッケージデザイン				16	1.0	講義・演習	
	コース実習Ⅰ(必須)	128	4.0	実習	コース実習Ⅱ(必須)	308	10.0	実習	コース実習Ⅲ(必須)	220	7.0	実習	コース実習Ⅳ(必須)	334	11.0	実習
選択(6次産業ビジネスコース)科目計				570	19.5		選択(6次産業ビジネスコース)科目計				774	31.0				
指定 科目	英語試験対策講座Ⅰ	16	1.0	講義・演習	危険物取扱者	16	1.0	演習					危険物取扱者	16	1.0	演習
	パソコン検定対策講座	20	1.0	演習	毒物劇物取扱者	16	1.0	演習					毒物劇物取扱者	16	1.0	演習
	家畜人工授精師	140	9.0	講義・実習	農業技術の基礎	16	1.0	講義					農業技術の基礎	16	1.0	講義
	家畜商	16	1.0	講義	農業機械実習(大特のみ)	32	1.0	実習					農業機械実習(大特)	32	1.0	実習
					フォークリフト実習	48	0.0	実習					農業機械実習(けん引)	40	0.0	実習
					土壤医試験対策講座	16	1.0	講義					フォークリフト実習	48	0.0	実習
					狩猟免許対策講座	8	0.0	講義					土壤医試験対策講座	16	1.0	講義
													狩猟免許対策講座	8	0.0	講義
													英語試験対策講座Ⅱ	16	1.0	講義・演習
	農業生産技術コース	共通・選択科目計(指定科目含めず)				1,264	59.0		農業生産技術コース	共通・選択科目計(指定科目含めず)				1,278	59.5	
6次産業ビジネスコース	共通・選択科目計(指定科目含めず)				1,264	59.0		6次産業ビジネスコース	共通・選択科目計(指定科目含めず)				1,278	61.0		
2年間履修時間・単位計										2,542	118.5		実習時間割合%		生産	47.0
										2,542	120.0		※集団活動は実習時間に含めない。		6次	45.1

※単位は、講義・演習は15時間を1単位、実習・実技は30時間を1単位とし、0.5単位で端数を切り捨て換算。

②授業計画（シラバス）

目次

教養教科

英語Ⅰ（英会話）	1 年前期	・ ・ ・	1 4
英語Ⅱ（英会話）	1 年後期	・ ・ ・	1 4
進学英語Ⅰ	1 年前期	・ ・ ・	1 4
進学英語Ⅱ	1 年後期	・ ・ ・	1 4
生物（進学）	1 年前期	・ ・ ・	1 4
化学	1 年後期	・ ・ ・	1 4
小論文	1 年後期	・ ・ ・	1 5
基礎計算（補講）	1 年前期	・ ・ ・	1 5
キャリア形成	1 年後期	・ ・ ・	1 5
ビジネスマナー	1 年後期	・ ・ ・	1 5
体育	1 年全期	・ ・ ・	1 5
特別講義	1 年全期	・ ・ ・	1 6
集団活動	1 年全期	・ ・ ・	1 6

専門教科（栽培・飼養管理）

農業基礎	1 年前期	・ ・ ・	1 6
作物	1 年前期	・ ・ ・	1 6
野菜園芸	1 年前期	・ ・ ・	1 6
果樹園芸	1 年前期	・ ・ ・	1 7
花き園芸	1 年前期	・ ・ ・	1 7
農業機械学	1 年前期	・ ・ ・	1 7
植物防疫学	1 年後期	・ ・ ・	1 7
土壌肥料学	1 年後期	・ ・ ・	1 7
実用計算	1 年後期	・ ・ ・	1 8
農業簿記	1 年後期	・ ・ ・	1 8
畜産	1 年全期	・ ・ ・	1 8
基礎演習（農学実験）	1 年全期	・ ・ ・	1 8
基礎演習（情報処理）	1 年全期	・ ・ ・	1 8
基礎演習（作業演習）	1 年全期	・ ・ ・	1 8
卒論演習Ⅰ	1 年後期	・ ・ ・	1 8

専門教科（食品・流通）

農業・食品加工基礎実習	1 年前期	・ ・ ・	1 9
食品栄養・機能学	1 年前期	・ ・ ・	1 9
農産物・食品流通特論	1 年後期	・ ・ ・	1 9

専門教科（経営）

6 次産業化概論	1 年後期	・ ・ ・	1 9
----------	-------	-------	-----

専門教科（社会・経済）

地域農業	1 年後期	・ ・ ・	2 0
------	-------	-------	-----

専門教科（農業生産技術コース選択）

スマート農業	1 年後期	・ ・ ・	2 0
ドローン講習	1 年後期	・ ・ ・	2 0
農業体験学習（必須）	1 年前期	・ ・ ・	2 0
農業体験学習（必須）	1 年後期	・ ・ ・	2 0
コース実習Ⅰ（必須）	1 年前期	・ ・ ・	2 0
コース実習Ⅱ（必須）	1 年後期	・ ・ ・	2 0

専門教科（6 次産業ビジネスコース選択）

食品加工学	1 年後期	・ ・ ・	2 1
食品衛生学	1 年後期	・ ・ ・	2 1
食品加工実習	1 年前期	・ ・ ・	2 1
6 次産業体験学習（必須）	1 年前期	・ ・ ・	2 1
6 次産業体験学習（必須）	1 年後期	・ ・ ・	2 1
コース実習Ⅰ（必須）	1 年前期	・ ・ ・	2 1
コース実習Ⅱ（必須）	1 年後期	・ ・ ・	2 1

教養教科（1年次生）

時期	科目名	学習のねらい	授業計画	担当教官 (補助教官)	時間 単位	履修 方法	評価方法	教 材
1 年 前期	英語Ⅰ (英会話) ※進学英語 Ⅰとの選択	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、外国や我が国の生活や文化についての理解を深めるとともに、言語や文化に対する関心を高め、これらを尊重する態度を育てる。	①Meeting People ②Talking about the Kitchen [1] ③Talking about the Kitchen [2] ④Likes and Dislikes ⑤Ordering Food: What Do We Need? ⑥At a Restaurant ⑦Cooking ⑧Recipes	喜多 佳代子	3 0 2. 0	講義 演習	期末試験 小テスト 課題、プレゼンテーション 授業態度 出席状況	Speaking of Nutrition (南雲堂)
1 年 後期	英語Ⅱ (英会話) ※進学英語 Ⅱとの選択	英語検定、派欧・米研修等各自の目標に向かって応用力をつける。また、身近なトピックを読むことにより、興味を持ちながら読解力を身につける。	①Giving Dietary Advice ②Talking about Diets ③Researching Diet Information ④Life as a Dietitian ⑤Talking about Diets ⑥People with Special Dietary Needs ⑦Talking about Experiences	喜多 佳代子	3 0 2. 0	講義 演習	期末試験 小テスト 課題、プレゼンテーション 学習態度 出席状況	Speaking of Nutrition (南雲堂)
1 年 前期	進学英語Ⅰ ※英語Ⅰとの選択	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、人間、社会、自然などについての考えを深めるとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を養う。	①Itを含む構文 ②不定詞を含む構文 ③動名詞を含む構文 ④分詞を含む構文 ⑤関係詞を含む構文 ⑥否定構文 ⑦助動詞を含む構文 ⑧条件構文 ⑨接続詞を含む構文 ⑩譲歩構文 ⑪比較構文 ⑫その他の構文	小川 めぐみ	3 0 2. 0	講義	期末試験 小テスト 課題、プレゼンテーション 授業態度 出席状況	表現のための基礎 英語構文 ノート86 (桐原書店) プリント
1 年 後期	進学英語Ⅱ ※英語Ⅱとの選択	英語を通じて、人間、社会、自然などについての考えを深めるとともに、文章中の情報や考えなどを的確に理解したり、英語で適切に伝えたりする能力を養う。	①Unit 1: Health ②Unit 2: Culture ③Unit 3: History ④Unit 4: Biography ⑤Unit 5: Literature ⑥Unit 6: Tourism ⑦Unit 7: Social Problems ⑧Unit 8: Sociology ⑨Unit 9: Animals ⑩Unit 10: Art ⑪Unit 11: Food ⑫Unit 12: Science/Technology ⑬Unit 13: Language ⑭Unit 14: Psychology ⑮Unit 15: Sports	小川 めぐみ	3 0 2. 0	講義 演習	期末試験 小テスト 課題 積極性 出席状況	Active Training for Reading& Writing Through 15Topics (鶴見書店)
1 年 前期	生物 (進学) ※選択	生物の形態的・生理的共通性と、生態系における種の多様性について学び、生物の世界に対する理解を深める。	①細胞と分子(1) ②細胞と分子(2) ③代謝(1) ④代謝(2) ⑤代謝(3) ⑥遺伝情報の発現(1) ⑦遺伝情報の発現(2) ⑧遺伝情報の発現(3) ⑨遺伝情報の発現(4) ⑩生物の環境応答(1) ⑪生物の環境応答(2) ⑫生物の環境応答(3) ⑬生物群集と生態系(1) ⑭生物群集と生態系(2) ⑮生物群集と生態系(3)	徳永 晴美	(30) (2. 0)	講義	期末試験 小テスト レポート 出席状況	「生物」 (生物基礎・生物) (数研出版) プリント
1 年 後期	化学	無機化学・有機化学・生化学等の基礎的・基本的な	①基礎知識の確認 ②無機化学の基礎(1) ③無機化学の基礎(2)	仁木 留見	(30) (2. 0)	講義	期末試験 ノート提出	「チャート式新化学」(化

		知識の確実な定着を図るとともに、探求の精神を養う。	④無機化学の基礎(3) ⑤無機化学の基礎(4) ⑥有機化学の基礎(1) ⑦有機化学の基礎(2) ⑧有機化学の基礎(3) ⑨有機化学の基礎(4) ⑩有機化学の基礎(5) ⑪生化学の基礎(1) ⑫生化学の基礎(2) ⑬生化学の基礎(3) ⑭自然化学入門 ⑮化学のまとめ					学基礎・化学)」(数研出版)
1 年後期	小論文	卒業論文の作成時、あるいは就職試験・編入学試験等で必要となる、小論文を書く力及び国語力を身につける。	①作文と小論文の違い、自己紹介文 ②言葉と表記について ③小論文について ④基本的な作文技術①(語順など) ⑤基本的な作文技術②③(読点・句点の使い方など) ⑥基本的な作文技術④⑤(漢字・助詞の使い方など) ⑦整った分を書く ⑧相手に応じた言葉遣い ⑨分かりやすい文を書く ⑩文のつながり方、原稿用紙の使い方 ⑪敬語の確認 ⑫手紙・封筒の書き方 ⑬履歴書の書き方 ⑭ことわざ・慣用句の理解 ⑮小論文のまとめ	牧野 久美子	3 0 2. 0	演習	小テスト 学習態度 出席状況 提出物	「国語表現」(大修館書店)、プリント
1 年前期	基礎計算(補講)	農作業等に必要となる基礎的計算方法を習得する。	①農業全般に必要な基礎的計算 ②農産加工に必要な基礎的計算	片山 環奈	(16) (一)	講義	学習態度 出席状況 確認試験	プリント
1 年後期	キャリア形成	学校を卒業してから、社会で生きていく自分を考えるための授業。「キャリア」について学び、自分自身の「キャリアプランニング」に取り組む。	①授業の概要・キャリアは人生そのものの経験を振り返る ②自分を知ろう・キャリアについて考えよう・若年層の雇用環境 ③オンライン面接のコツ ④キャリア形成の考え方と方法(キャリア形成7つのステップ) ⑤キャリアプランニング実践(自分の人生を考えよう)	藪田 ひとみ	8 0. 5	講義 演習 グループ ディスカ ッション	出席状況 授業態度 (参加意欲) 自分の振り返りシート作成等	プリント パワーポイント
1 年後期	ビジネスマナー	農業大学校での就職活動、今日の社会環境及び社会的・職業的自律を目指す、基礎的能力を養う。就業力に不可欠な日本語力・コミュニケーション力及びビジネス・マナー力の向上を図る。 まず、農業大学校の就職環境全般の知識を習得し、次に社会人として望まれる人材並びに学生の見方について学ぶ。 適性検査に基づき自らの適性を性格の観点から診断把握し、さらに就職活動に必須の履歴書の書き方を理解する。	①キャリアの基本理解 - 1 就職とは何か？学生と社会人の違い、分離札のマスター、入退室の仕方 ②キャリアの基本理解 - 1 農業大学校の進路情報及び就職準備 ③面接対策とビジネスマナー - 1 良い印象を与えるための基本原則：メラビアンの法則、第一印象の重要性 ④面接対策とビジネスマナー - 2 ビジネスマナーとコミュニケーションスキル ⑤履歴書の作成 - 1 基本的な履歴書の書き方と注意点 ⑥履歴書の作成 - 2 自己PR・学生時代に力を入れたことの文章作成 ⑦将来のキャリア選択と進路 - 1 インターンシップからのキャリア構築、志望動機の記事作成、よく聞かれる質問とその回答方法 ⑧将来のキャリア選択と進路 - 2 模擬面接	山野 明美	1 6 1. 0	演習	出席状況 履歴書を継続的に作成すること	社会でいける実践 ビジネスマナー(株)ウイネット ビジネスマナー研究会、自作資料等、パワーポイント
1・2 年	体育	チームワークの楽しさを味わいな	(卓球) ①基本動作と多球練習(反復練習)	近藤 修司 岡田 和行	3 0 1. 0	実技	学習態度 出席状況	

前・後期	※卓球 バレーボール バドミントン から選択	がら、スポーツ競技の技術を習得するとともに、心身の鍛錬に資する。	②日本卓球協会の正式ルール ③競技 ④応用練習 (バレーボール、バドミントン) ①ルール説明 ②基礎練習 ③競技	芝 清隆				
1年前・後期	特別講義	他の講義に属さず、短期間で習得できる内容について、集中的に1～2回の講義で学ぶ。	①農業青年のつどい ②ハローワーク研修 ③農業法人との交流会・就農相談会 ④農業法人説明会 ⑤農業法人バスツアー ⑥人権研修 ⑦交通講話 ⑧避難訓練 ⑨その他	各担当	2 6 1.5	講義 演習	学習態度 出席状況	テキスト 関係資料
1年前・後期	集団活動	学生自治会主催の行事その他を学習の一環と位置づけ、集団の一員としての自主的、実践的な態度を育てる。	①自治会総会、新入生歓迎会 ②四国農学連スポーツ大会 ③農大祭 ④校外研修 ⑤その他自治会活動 ⑥その他	各行事担当	7 8 3.0	実習	出席状況 学習態度	関係資料

専門教科（栽培・飼養管理）（1年次生）

時期	科目名	学習のねらい	授業計画	担当教官 (補助教官)	時間 単位	履修 方法	評価方法	教 材
1年前期	農業基礎	農業と私たちの暮らしとの関わりについて学ぶとともに、農業技術の基礎を学び、農業機械や土壌肥料、施設園芸等の高度・専門的な技術習得へ発展させる基礎とする。	(農業基礎分野) ①作物栽培の科学 ②イネ科・マメ科(米麦・豆類) ③果菜類(ナス科・ウリ科) ④葉根菜類(アブラナ科) (農業機械基礎) ①人間世界と農業 ②農業機械化 ③農業機械の安全な使用	乾 千紘 所 洋志	1 6 1.0	講義	期末試験 小テスト 学習態度 出席状況	新版：農業の基礎 (農文教) 新版：農業機械の構造と利用 (農文教) プリント 関係資料
1年前期	作物	水稻の品種、栽培管理法、米の活用および麦類・大豆等の品種、栽培管理概要について理解するとともに、本県の実情を把握する。	①作物の特徴と種類 ②稲作と米の生産 ③水稻品種について ④水稻栽培(育苗) ⑤水稻栽培(本田の準備) ⑥水稻栽培(本田の管理、水管理) ⑦水稻栽培(病虫害防除、雑草防除) ⑧水稻栽培(収穫、調製) ⑨水稻栽培(米の品質規格と貯蔵) ⑩稲作経営と米流通 ⑪米をめぐる状況(1) ⑫米をめぐる状況(2) ⑬麦類の栽培と流通利用 ⑭大豆等の栽培と流通利用 ⑮作物のまとめ	石田 和宏	3 0 2.0	講義	期末試験 学習態度 出席状況	新版：作物栽培の基礎 (農文教) プリント パワーポイント
1年前期	野菜園芸	野菜に関する基本的な知識や栽培管理、園芸技術について知る。	①野菜の栽培と利用 ②いろいろな野菜とその特徴 ③食生活と野菜の役割 ④生産・消費の推移と動向 ⑤種子と発芽 ⑥根の発達と肥大 ⑦茎葉の生育と結球 ⑧花芽の分化・発達と果実の肥大 ⑨休眠と休眠打破 ⑩野菜の品質とその管理 ⑪野菜の健全な生育と環境 ⑫土壌管理と施肥 ⑬有害生物(病虫害、雑草)の管理	服部 弘明	3 0 2.0	講義	期末試験 小テスト 学習態度	新版：野菜栽培の基礎 (農文教) プリント

			⑭果菜類の育苗 ⑮葉茎菜類の育苗、セル成形苗					
1 年 前期	果樹園芸	果樹に関する基本的な知識や栽培管理について知る。	①果実の利用と果樹栽培 ②食生活と果実の利用 ③果実の生産と消費 ④果樹の成長と果実生産 ⑤成長の特徴と果実生産 ⑥花・果実のしくみと発育 ⑦葉の成長とはたらき ⑧芽の種類と花芽分化、結果習性 根の成長とはたらき ⑨果樹栽培の適地 ⑩年間の管理と良果多収の基本 ⑪枝の成長と整枝・せん定 ⑫基本になる栽培管理技術 ⑬土壌管理とかん水・施肥 ⑭苗木の生産と果樹園の開設・整備 ⑮施設栽培・高品質果栽培、貯蔵・加工の基礎	津村 哲宏	3 0 2. 0	講義	期末試験 小テスト 学習態度	新版：果樹栽培の基礎 (農文協) プリント
1 年 前期	花き園芸	花き生産の基礎となる生育・開花生理並びに基礎栽培技術・新栽培技術を習得するとともに、花き経営、花きを巡る情勢等も理解する。	①花き園芸とは、生活と花き、花きの分類 ②花きの形態と観賞性、花きの成長と環境 ③花きの一生と成長・開花 ④開花調節の技術 ⑤成長と草姿の調節 ⑥花きの繁殖方法 ⑦花き生産の現状 ⑧花きの育種 ⑨品種登録と権利の保護・利用 ⑩花きの採種および種苗生産 ⑪土の性質と花きの施肥 ⑫花き用施設の種類・構造と利用 ⑬花きの品質と品質保持 ⑭花きの流通と販売 ⑮花きの経営	東條 浩章	3 0 2. 0	講義	期末試験 小テスト 学習態度	新版：草花栽培の基礎 (農文協) プリント
1 年 前期	農業機械学	農業機械の操作や構造等について学ぶ。	①トラクターの構造と操作 ②歩行型トラクターの特徴 ③ガソリン機関、ディーゼル機関 ④電動機の構造と原理 ⑤耕耘整地用機械の種類 ⑥稲作の作業体系と機械 ⑦野菜・畑作用機械の種類と構造 ⑧農業機械の効率的利用	所 洋志	1 6 1. 0	講義	期末試験 出席状況	新版：農業機械の構造と利用 (農文教) プリント
1 年 後期	植物防疫学	作物を病害虫から守るため、主な病原体や害虫の生態、病虫害の症状、防除法、農薬について学ぶ。	①植物防疫とは ②病原体の種類と感染生理(1) ③病原体の種類と感染生理(2) ④害虫の種類と生態(1) ⑤害虫の種類と生態(2) ⑥病虫害の発生予察と植物検疫 ⑦農薬の基礎知識と安全性 ⑧殺菌剤の種類と効果 ⑨殺虫剤の種類と効果 ⑩物理的防除の実際 ⑪耕種的防除の実際 ⑫生物的防除の実際(1) ⑬生物的防除の実際(2) ⑭今後の病虫害管理 ⑮まとめ	坂口 謙二	3 0 2. 0	講義	期末試験 出席状況	図解でよくわかる病虫害のきほん (誠文堂新光社) プリント資料
1 年 後期	土壌肥料学	農作物の生育に必要な土壌環境、生物生育と土壌の化学性、物理性、生物性の関連、農作物の養分吸収及び施肥設計について学習する。	①作物栽培環境と栽培期間、栽培地域の拡大 ②作物の健全な生育と土壌環境 ③作物生育と土壌の化学性 ④作物生育と土壌の物理性 ⑤作物生育と土壌の生物性 ⑥土壌改良と施肥・灌水管理 ⑦コスト・環境負荷低減を目指した土壌・施肥管理 ⑧主要作物の特性と施肥管理 ⑨土壌診断の内容と進め方	井上 眞一	1 6 1. 0	講義	期末試験 小テスト 学習態度	土づくりと作物生産(日本土壌協会)、プリント パワーポイント

1 年 後期	実用計算	栽培技術や経営技術に必要な各種計算方法を学習し栽培管理や経営分析に活用する。	①農作物栽培管理に必要な単位と計算方法 ②栽培に必要な基本的な計算 ③経営に必要な基本的な計算	赤井 昭雄	1 6 1. 0	講義	学習態度 出席状況	プリント 関係資料
1 年 後期	農業簿記	農業経営と家計分の記帳の分離により、農業経営の現状と将来の経営計画のために農業簿記を学習する。	①農業簿記の基礎－資産・負債・資本、収益と費用 ②開始仕訳・記帳－期首貸借対照表作成、開始仕訳と元帳転記 ③取引の仕訳－仕訳けの実務 ④元帳転記－元帳転記の実務 ⑤合計残高試算表－合計残高試算表の作成実務 ⑥決算	西岡 稔晴	2 0 1. 0	講義 演習	期末試験 学習態度 出席状況	資料（農業簿記の基礎と例題）
1 年 前・ 後期	畜産	畜産物を生産するための基本的な技術と本県における生産動向や畜産の最新技術情報について学ぶ。	①畜産の役割と動向 ②家畜の生理・生態と特徴 ③家畜の飼育環境と生体制御 ④家畜の繁殖・育種とバイオテクノロジーの活用 ⑤家畜の衛生と疾病、農場HACCP ⑥徳島県の畜産と環境保全型農業への取り組み ⑦鶏の栄養と飼料 ⑧育雛と採卵鶏・肉用鶏の生理、飼育技術 ⑨飼料作物の特徴と利用、調整・貯蔵 ⑩豚の栄養と飼料 ⑪豚の生理と飼育技術 ⑫乳牛の栄養と飼料 ⑬泌乳生理と乳牛の飼育技術 ⑭肉牛の栄養と飼料 ⑮産肉生理と肉牛の飼育技術	吉田 雅規 井上 眞一	3 0 2. 0	講義	期末試験 小テスト 学習態度	家畜飼育の基礎（農文教） プリント パワーポイント
1 年 前・ 後期	基礎演習 （農学実験）	果実分析や各種観察等の演習を通して、農学の基礎能力の向上をめざす。バイオテクノロジーの基本的な作業管理を学ぶ。	①植物の形態観察（植物の構造理解と実体顕微鏡の操作習得） ②植物組織の顕微鏡観察 ③動物組織の観察 ④植物病虫害の採集とルーペ及び顕微鏡による観察 ⑤果実分析（糖度・酸度測定） ⑥植物バイオテクノロジーの実際	阿部 成人 吉田 雅規 乾 千紘 川村 泰史	2 0 1. 0	講義 演習	学習態度 提出物 出席状況	資料、組織標本等
1 年 前・ 後期	基礎演習 （情報処理）	パソコンのビジネスソフトである表計算・文章作成・プレゼンテーションの基本的スキルを習得する。 インターネットでの検索・情報収集の方法を学ぶ。	①表計算ソフト（エクセルの基本） 四則計算・数式・関数の使い方、書式の設定方法 ②グラフの作成、データベースの利用方法、インターネットの検索 ③文章作成ソフト（ワードの基本） キーボード入力、簡単な文章作成 ④手紙、回覧板等の作成（野線、書式の習得） ⑤パワーポイントの基本操作 ⑥作品発表	藤井 貞仁	2 0 1. 0	講義 演習	小テスト 学習態度 出席状況	エクセル ワード パワーポイント
1 年 前・ 後期	基礎演習 （作業演習）	農作業で使用する農具の適切な使い方、農業機械の構造と適切な使用、整備と管理等を学ぶ。	①農機具類の安全な使用 ②農業機械の構造 ③農業機械の点検と整備 ④ロープワーク ⑤溶接の基本	東條 浩章 所 洋志 藤岡 敏明 中四国クボタ	2 0 1. 0	講義 演習	学習態度 提出物 出席状況	新版：農業機械の構造と利用（農文協）、資料
1 年 後期	卒論演習Ⅰ	プロジェクトの課題設定から試験設計にいたる進め方を学び、計画書を作成する。	①プロジェクトの課題設定 ②仮説の立て方と検証方法の検討 ③科学的視点の理解 ④試験設計 ⑤科学論文作成についての考え方 ⑥計画発表（プレゼンテーション）	村田 光稔	1 6 1. 0	演習	出席状況 学習態度 提出物	資料 パワーポイント

専門教科（食品・流通）（1年次生）

時期	科目名	学習のねらい	授業計画	担当教官 (補助教官)	時間 単位	履修 方法	評価方法	教 材
1 年 前期	農業・食品 加工基礎実 習	班編制により、 果樹、作物・野 菜、花き、土壌分 析、食品加工及び 畜産飼養管理につ いて学び、進路選 択やプロジェクト 課題検討の参考と する。	①農業大学校における果樹、作物、 野菜、花きの栽培管理の実際 ②土壌の分析と診断 ③食品加工の基本 ④畜産研究所における鶏、牛、豚 の飼養管理と研究成果 ⑤農業生産技術コース、6次産業 ビジネスコースにおけるプロジ ェクト・実習の取組	各分野担当 畜産研究課	3 2 1.0	実習	学習態度 出席状況	プリント 他
1 年 後期	食品栄養・ 機能学	食品に含まれる 栄養成分の性状や 機能、食品成分と 色、味、香りとの 関わりや加熱によ る変化等について 学ぶ。 ヒトの成長、発 育、活動には、食 品の摂取が深く関 わっていることか ら、生命を支える 食品の多種多様な 成分の役割につい ての理解と探求心 をはぐくむこと を目的とする。	①人と食べ物 ②食品の一次機能、炭水化物：単 糖類 ③炭水化物：二糖類～多糖類、栄 養と働き ④脂質：脂肪酸の種類および特徴 ⑤脂質：必修脂肪酸、栄養と働き ⑥たんぱく質：アミノ酸、立体構 造 ⑦たんぱく質：分類、栄養と働き ⑧ビタミン：種類と働き ⑨ミネラル：種類と働き ⑩水分：特性と働き、水分活性と 中間水分食品 ⑪食品の二次機能：色素成分、呈 味成分 ⑫食品の二次機能：香気成分、有 害成分、アレルゲン ⑬食品の三次機能：食品の健康機 能性 ⑭食品成分：炭水化物、脂質、た んぱく質の変化 ⑮食品成分：ビタミンの変化、褐 変	渡邊 幾子	3 0 2.0	講義	期末試験 学習態度 出席状況	栄養科学 イラスト レイテッ ド食品学 I (羊土社)
1 年 後期	農産物・食 品流通特論	県内大手量販店 であるキョーエイ の流通・販売の取 組みや現状、今 日的な課題につい て理解を深める。	①競争社会戦略（バリューチェー ン）、差別化の構築など （すきとく市を例にして） ②価格、販売戦略 （価格の設定方法） ③とくし丸の社会貢献活動 ④プロモーション戦略の進め方 （新規顧客の獲得、商品やサービ スの認知拡大など） ⑤農業と生物多様性 ⑥SDGs ⑦加工食品の表示と食品衛生 ⑧HACCPの概要	小出 直史	1 6 1.0	講義	学習態度 出席状況 レポート	パワーポ イント 資料等

専門教科（経営）（1年次生）

時期	科目名	学習のねらい	授業計画	担当教官 (補助教官)	時間 単位	履修 方法	評価方法	教 材
1 年 後期	6次産業化 概論	6次産業化を図 る際に必要な知識 について講義・演 習を通して学ぶ。	①事業とは ②企業の強み分析 ③企業戦略 ④顧客ニーズ ⑤マーケティング ⑥ブランド力 ⑦企業の収益 ⑧組織論	長尾 辰彦	1 6 1.0	講義	レポート	パワーポ イント 資料等

専門教科（社会・経済）（1年次生）

時期	科目名	学習のねらい	授業計画	担当教官 (補助教官)	時間 単位	履修 方法	評価方法	教 材
1 年 後期	地域農業	本県地域農業の現状や課題、今後の方向や普及指導機関による支援活動について知見を深め、地域農業の中核的役割を担う人材としての資質向上をめざす。	①徳島地域の農林水産業等 ②鳴門藍住地域の農林水産業等 ③阿南地域の農林水産業等 ④美波地域の農林水産業等 ⑤吉野川地域の農林水産業等 ⑥美馬地域の農林水産業等 ⑦三好地域の農林水産業等	各農業支援センター所長 (村木 朋美)	1 6 1. 0	講義	レポート 出席状況 学習態度	パワーポイント資料等

専門教科（農業生産技術コース選択）（1年次生）

時期	科目名	学習のねらい	授業計画	担当教官 (補助教官)	時間 単位	履修 方法	評価方法	教 材
1 年 後期	スマート農業	農機メーカーや実践企業から講師を招き、実演や現地視察も交え、最新情報を学ぶ。	①スマート農業とは ②スマート農機の操縦実演と活用(1) ③〃〃(2) ④最新の各種スマート機器 ⑤スマート農業における環境制御 ⑥ハウス内環境の特徴(1) ⑦〃〃(2) ⑧施設トマトにおける実践事例	阿部 成人 誠和 中四国クボタ	1 6 1. 0	講義 実演 現地視察	期末試験 学習態度	
1 年 後期	ドローン講習	ドローン操縦者のライセンス取得を目指して、講義・実機操縦・受験資格取得まで一貫して学ぶ。	①初級講習 講義：各種法令、安全基準、禁止事項 実技：飛行基本操作、GPSを使用しない操縦法 ②上級講習 講義：操作技術、ドローン運用法、夜間飛行、目視外飛行 実技：実機による操作技術として遠距離離着陸、遠距離手動操作、8 の字飛行、夜間及び目視外飛行	外部委託講師 (東條 浩章)	3 0 2. 0	講義 演習	出席状況 学習態度	関係資料等
1 年 前・ 後期	農業体験学習（必須）	先進的な農業経営や地域農業の実態を体験的し、高度な知識や技術及び企業的な経営管理能力を養う。	県内先進的農業者・法人等での体験	県内農業経営体等	7 2 2. 0	実習	出席状況 発表内容	
1 年 前期	コース実習Ⅰ（必須）	基本的な農作物や家畜の栽培・飼養管理、食品加工体験を通して農業との関わり方を明確にするとともに、農業技術の深化に関するプロジェクト課題の探索を行う。	①コースで栽培・飼養している多種多様な農作物・家畜、食品加工等の基礎的技術習得 ②安全ルールを遵守した作業管理 ③農作物・家畜の観察 ④日々の活動記録の習慣化 ⑤模擬会社の各担当の役割の理解 ⑥農業技術の深化に関する事例研究	農業生産技術コース担当	144 4. 5	実習	学習態度 出席状況 自己評価	関係資料
1 年 後期	コース実習Ⅱ（必須）	高度・専門的な農作物や家畜の栽培・飼養管理、食品加工の実践を通して技術修得と感覚を醸成するとともに、農業生産技術の深化に向けたプロジェクト課題に取り組む。	①コースで栽培・飼養する農作物・家畜等の管理作業の修得 ②安全・効率的な作業手順と役割分担の構築 ③模擬会社の運営体制を反映した日々の実習作業の運営 ④模擬会社商品化検討 ⑤問題の現状分析と課題の明確化 ⑥農業技術の改善に貢献しうるプロジェクト計画作成と取り組み ⑦発表プレゼンテーション演習	農業生産技術コース担当	308 10. 0	実習	学習態度 出席状況 自己評価	関係資料

専門教科（6次産業ビジネスコース選択）（1年次生）

時期	科目名	学習のねらい	授業計画	担当教官 (補助教官)	時間 単位	履修 方法	評価方法	教 材
1 年 後期	食品加工学	食品加工の目的や意義を知り、加工の手法や原理および食品素材の特徴を学び、貯蔵・保存の原理を習得する。	①食品加工の目的・意義 ②食品保存の原理 ③食品加工の原理 ④加工食品の規格と表示 ⑤食肉加工 ⑥農産加工 ⑦乳産加工 ⑧食品の包装及び安全性	森松 文毅	1 6 1.0	講義	期末試験 学習態度 出席状況	新しい食 品加工学 (南江堂) プリント パワーポ イント
1 年 後期	食品衛生学	食品に起因する健康被害及び微生物による中毒について、それら疾病の特徴や危害因子の特性及び防止方法の基礎的知識を学ぶ。さらに、食品の安全性を確保するための食品衛生の重要性について学習する。また、一般生菌数の測定など、微生物検査について実験を行う。	①食品衛生の目的 ②食品と微生物 ③食品の変質と防止 ④細菌性食中毒の特徴と予防 ⑤微生物学実験の一般的諸注意 ⑥食品中の一般生菌数の測定 (実験講義) ⑦食品中の一般生菌数の測定 (実験) ⑧食品中の一般生菌数の測定 (培養結果観察) ⑨食品中の一般生菌数の測定 (考察とまとめ) ⑩ウイルス性食中毒の特徴と予防 ⑪自然毒食中毒・化学性食中毒 ⑫有害物質による食品汚染 ⑬食品による感染症・寄生虫症 ⑭食品添加物の使用目的と安全性 評価 ⑮食品衛生に関する最近のトピックス	岡崎 貴世	3 0 2.0	講義 実験	期末試験 出席状況 受講態度 レポート	プリント パワーポ イント
1 年 前期	食品加工実 習	六次産業化研究施設に設置された機器を利用し、実習をとおして使用方法及び加工技術を学ぶ。	①六次産業化研究施設に設置された機器の概要 ②電解水製造装置の使用法習得 ③スチームコンベクションオーブン、真空包装機の使用法及び加工技術習得（焼き菓子試作） ④アイスクリームフリーザーの使用法及び加工技術の習得（アイスクリーム試作） ⑤小型高温高圧調理機の使用法及び加工技術の習得（レトルト食品試作）	庄野 久美子 吉田 理恵	1 6 0.5	実習	出席状況 学習態度	プリント
1 年 前・ 後期	6次産業体 験学習（必 須）	単なる農業生産にとどまらず高付加価値農業を展開している農業経営体や流通・販売、資材・機械、食品企業等の農業を取り巻く幅広い業界で、体験学習する。	①県内企業体的経営体、食品加工・流通企業等での体験学習	県内企業体 等	7 2 2.0	実習	出席状況 発表内容	
1 年 前期	コース実習 I（必須）	基本的な農作物や家畜の栽培・飼養管理、食品加工体験を通して農業との関わり方を明確にするとともに、6次産業化の進展に関するプロジェクト課題の探索を行う。	①コースで栽培・飼養している多種多様な農作物・家畜、食品加工等の基礎的技術習得 ②安全ルールを遵守した作業管理 ③農作物・家畜の観察 ④日々の活動記録の習慣化 ⑤模擬会社の各担当の役割の理解 ⑥6次産業化の進展に関する事例研究	6次産業ビ ジネスコー ス担当	128 4.0	実習	学習態度 出席状況 自己評価	関係資料
1 年 後期	コース実習 II（必須）	高度・専門的な農作物や家畜の栽培・飼養管理、食品加工の実践を通して技術修得と感覚を醸成すると	①コースで栽培・飼養する農作物・家畜等の管理作業の修得 ②安全・効率的な作業手順と役割分担の構築 ③模擬会社の運営体制を反映した日々の実習作業の運営	6次産業ビ ジネスコー ス担当	308 10.0	実習	学習態度 出席状況 自己評価	関係資料

		もに、6次産業化の進展に向けたプロジェクト課題に取り組む。	④模擬会社商品化検討 ⑤問題の現状分析と課題の明確化 ⑥地域産業の発展に貢献しうるプロジェクト計画作成と取り組み ⑦発表プレゼンテーション演習					
--	--	-------------------------------	--	--	--	--	--	--

(2) 2年次生(令和6年度入学生適用)

①科目履修表

区分	1年次生(令和6年度)								2年次生(令和7年度)							
	前 期				後 期				前 期				後 期			
	科目名	時間	単位	履修方法	科目名	時間	単位	履修方法	科目名	時間	単位	履修方法	科目名	時間	単位	履修方法
教養	英語Ⅰ(英会話)	30	2.0	講義・演習	小論文	30	2.0	演習	進路キャリア支援	24	1.5	演習				
	進学英語Ⅰ			講義	英語Ⅱ(英会話)	30	2.0	講義・演習								
	生物(進学)	(30)	(2.0)	講義	進学英語Ⅱ			講義・演習								
	基礎計算(補講)	(16)	—	講義	化学	(30)	(2.0)	講義								
					キャリア形成	8	0.5	講義・演習								
					ビジネスマナー	16	1.0	講義・演習								
	体育(卓球、バレーボール、バドミントン)				30	1.0	実技	体育(卓球、バレーボール、バドミントン)				30	1.0	実技		
	特別講義				26	1.5	講義・演習	特別講義				18	1.0	講義・演習		
	集団活動(必須)				78	3.0	実習	集団活動(必須)				50	1.5	実習		
	教養科目計(補講、生物含めず)				248	13.0		教養科目計				122	5.0			
栽培 飼養 管理	農業基礎	16	1.0	講義	植物防疫学	30	2.0	講義	野菜栽培各論	30	2.0	講義	農業気象学	16	1.0	講義
	作物	30	2.0	講義	土壌肥科学	16	1.0	講義	果樹栽培各論	30	2.0	講義	高度技術演習	16	1.0	演習
	野菜園芸	30	2.0	講義	実用計算	16	1.0	講義	花き栽培各論	30	2.0	講義	特産物生産	16	1.0	講義
	果樹園芸	30	2.0	講義					家畜飼養衛生	30	2.0	講義				
	花き園芸	30	2.0	講義					植物生理学	30	2.0	講義				
	農業簿記	20	1.0	講義・演習												
	畜産				30	2.0	講義									
	卒論演習Ⅰ				16	1.0	講義・演習	卒論演習Ⅱ					30	2.0	演習	
	基礎演習(農学実験)				20	1.0	講義・演習									
	基礎演習(情報処理)				20	1.0	講義・演習									
基礎演習(作業演習)				20	1.0	講義・演習										
食品 流通	農業・食品加工基礎実習	32	1.0	実習	食品機能学	16	1.0	講義	食の安全・安心	16	1.0	講義				
	食品栄養学	30	2.0	講義	農産物・食品流通特論	16	1.0	講義								
営					6次産業化概論	16	1.0	講義	マーケティング論	16	1.0	講義				
社会 経済					地域農業	16	1.0	講義	経営戦略論	16	1.0	講義	農業経営と組織論	30	2.0	講義
													地域経済論	16	1.0	講義
													農業政策	30	2.0	講義
													環境と農業	30	2.0	講義
選択 ／ 農業 生産	専門(共通)科目計				450	27.0		専門(共通)科目計				382	25.0			
	農業機械学	16	1.0	講義	スマート農業	16	1.0	講義・演習	GAP演習	16	1.0	講義	卒業論文(必須)	120	8.0	演習
					ドローン講習	32	2.0	講義・演習								
	農業体験学習(必須)	8	0.0	実習	農業体験学習(必須)	68	2.0	実習	農業体験学習(必須)	36	1.0	実習				
	コース実習Ⅰ(共通)				16	1.0	演習									
	コース実習Ⅰ(必須)	128	4.0	実習	コース実習Ⅱ(必須)	292	9.5	実習	コース実習Ⅲ(必須)	244	8.0	実習	コース実習Ⅳ(必須)	358	11.5	実習
選択 ／ 6次 産業	選択(農業生産技術コース)科目計				576	20.5		選択(農業生産技術コース)科目計				774	29.5			
	食品加工演習	16	0.5	実習	食品加工学	16	1.0	講義	HACCP演習	16	1.0	講義・演習	卒業論文(必須)	120	8.0	演習
					食品衛生学	30	2.0	講義・実験	新ビジネス創造	16	1.0	講義・演習	食品産業特別講義	16	1.0	講義・演習
	6次産業体験学習(必須)	8	0.0	実習	6次産業体験学習(必須)	68	2.0	実習	6次産業体験学習(必須)	36	1.0	実習				
	コース実習Ⅰ(共通)				16	1.0	実習	パッケージデザイン					16	1.0	講義・演習	
	コース実習Ⅰ(必須)	128	4.0	実習	コース実習Ⅱ(必須)	294	9.5	実習	コース実習Ⅲ(必須)	220	7.0	実習	コース実習Ⅳ(必須)	334	11.0	実習
	選択(6次産業ビジネスコース)科目計				576	20.0		選択(6次産業ビジネスコース)科目計				774	31.0			
指定 科目	英語試験対策講座Ⅰ	16	1.0	演習	危険物取扱者	16	1.0	演習	家畜人工授精師	140	9.0	講義・実習	危険物取扱者	16	1.0	演習
	パソコン検定対策講座	16	1.0	演習	毒物劇物取扱者	16	1.0	演習	家畜商	16	1.0	講義	毒物劇物取扱者	16	1.0	演習
					農業技術の基礎	16	1.0	講義					農業技術の基礎	16	1.0	講義
					農業機械実習	36	1.0	実習					農業機械実習(大特)	32	1.0	実習
					フォークリフト実習	48	0.0	実習					農業機械実習(けん引)	40	0.0	実習
					土壌医試験対策講座	16	1.0	講義					フォークリフト実習	48	0.0	実習
					狩猟免許対策講座	8	0.0	講義					土壌医試験対策講座	16	1.0	講義
													狩猟免許対策講座	8	0.0	講義
													英語試験対策講座Ⅱ	16	1.0	講義・演習
	農業生産技術コース	共通・選択科目計(指定科目含めず)				1,274	60.5	農業生産技術コース	共通・選択科目計(指定科目含めず)				1,278	59.5		
	6次産業ビジネスコース	共通・選択科目計(指定科目含めず)				1,274	60.0	6次産業ビジネスコース	共通・選択科目計(指定科目含めず)				1,278	61.0		
								2年間履修時間・単位計	2,552	120.0		実習時間割合%	生産	45.7		
									2,552	121.0		※集団活動は実習時間 に含めない。	6次	44.5		

※単位は、講義・演習は15時間を1単位、実習・実技は30時間を1単位とし、0.5単位で端数を切り捨て換算。

②授業計画（シラバス）

目次

教養教科

進路キャリア形成	2年前期	・・・	25
体育	2年全期	・・・	25
特別講義	2年全期	・・・	25
集団活動	2年全期	・・・	25

専門教科（栽培・飼養管理）

野菜栽培各論	2年前期	・・・	25
果樹栽培各論	2年前期	・・・	25
花き栽培各論	2年前期	・・・	26
家畜飼養衛生	2年前期	・・・	26
植物生理学	2年前期	・・・	26
農業気象学	2年後期	・・・	26
高度技術演習	2年後期	・・・	26
特産物生産	2年後期	・・・	27
卒論演習Ⅱ	2年全期	・・・	27

専門教科（食品・流通）

食の安全・安心	2年前期	・・・	27
---------	------	-----	----

専門教科（経営）

マーケティング論	2年前期	・・・	27
----------	------	-----	----

専門教科（社会・経済）

経営戦略論	2年前期	・・・	27
農業経営と組織論	2年後期	・・・	28
地域経済論	2年後期	・・・	28
農業政策	2年後期	・・・	28
環境と農業	2年後期	・・・	28

専門教科（農業生産技術コース選択）

GAP演習	2年前期	・・・	28
農業体験学習（必須）	2年前期	・・・	29
コース実習Ⅲ（必須）	2年前期	・・・	29
コース実習Ⅳ（必須）	2年後期	・・・	29
卒業論文	2年後期	・・・	29

専門教科（6次産業ビジネスコース選択）

HACCP演習	2年前期	・・・	29
新ビジネス創造	2年前期	・・・	29
食品産業特別講義	2年前期	・・・	29
6次産業体験学習（必須）	2年前期	・・・	30
パッケージデザイン	2年全期	・・・	30
コース実習Ⅲ（必須）	2年前期	・・・	30
コース実習Ⅳ（必須）	2年後期	・・・	30
卒業論文	2年後期	・・・	30

教養教科（２年次生）

時期	科目名	学習のねらい	授業計画	担当教官 (補助教官)	時間 単位	履修 方法	評価方法	教 材
２年 前期	進路キャリア支援	農業大学校の学生が本授業を通じて、学生が自信を持って就職活動に取り組み、希望する進路を実現するための準備を整えることを目指す。	①キャリアの基本理解 ②履歴書・エントリーシート作成 1 ③履歴書・エントリーシート作成 2 ④面接対策 1 ⑤面接対策 2	山野 明美	2 4 1.5	講義 演習	出席状況 履歴書を継続的に作成すること	
２年 前・ 後期	体育 ※卓球 バレーボール バドミントン から選択	チームワークの楽しさを味わいながら、スポーツ競技の技術を習得するとともに、心身の鍛錬に資する。	（卓球） ①基本動作と多球練習（反復練習） ②日本卓球協会の正式ルール ③競技 ④応用練習 （バレーボール、バドミントン） ①ルール説明 ②基礎練習 ③競技	近藤 修司 岡田 和行 芝 清隆	3 0 1.0	実技	学習態度 出席状況	
２年 前・ 後期	特別講義	他の講義に属さず、短期間で習得できる内容について、集中的に１～２回の講義で学ぶ。	①避難訓練 ②ようこそ先輩 ③ハローワーク研修 ④ルール電子図書活用研修 ⑤交通講話 ⑥農業青年のつどい ⑦人権研修 ⑧徳島県農業法人就農相談会 （事前説明会含む） ⑨生活安全講話 ⑩センター主催研修会	各担当	1 8 1.0	講義 演習	学習態度 出席状況	テキスト 関係資料
２年 前・ 後期	集団活動	学生自治会主催の行事その他を学習の一環と位置づけ、集団の一員としての自主的、実践的な態度を育てる。	①学生健康診断 ②三者面談 ③自治会総会・新入生歓迎会 ④四国農学連スポーツ大会 ⑤農大祭（準備・後片付け含む） ⑥収穫祭	各行事担当	5 0 1.5	実習	出席状況 学習態度	関係資料

専門教科（栽培・飼養管理）（２年次生）

時期	科目名	学習のねらい	授業計画	担当教官 (補助教官)	時間 単位	履修 方法	評価方法	教 材
２年 前期	野菜栽培各論	野菜の基礎的な栽培管理と本県現地における実践的な生産動向や最新技術情報について学ぶ。	①野菜の分類、来歴、生産流通、振興施策等 ＜野菜の栽培管理＞ ②ダイコン、ニンジン ③ジャガイモ、サツマイモ ④レンコン、その他イモ類 ⑤ホウレンソウ、シュンギク ⑥レタス、ツケナ類 ⑦ハクサイ、キャベツ ⑧ネギ、タマネギ ⑨ナス、ピーマン ⑩トマト、ブロッコリー ⑪キュウリ、カボチャ、スイカ ⑫イチゴ、カブ ⑬スイートコーン、マメ類 ⑭オクラ、パセリ ⑮野菜全般まとめ	南 利夫	3 0 2.0	講義	期末試験 小テスト 学習態度	新版：野菜栽培の基礎 （農文協）
２年 前期	果樹栽培各論	我が国における主要果樹の品種特性や最新の栽培技術について学ぶ。また、本県独自の果樹栽培について、生産から流通販売までを理解する。	①リンゴの品種と栽培技術 ②スダチの栽培技術と流通販売 ③ナシの品種と栽培技術 ④ブドウの品種と栽培技術 ⑤カキの品種と栽培技術 ⑥モモの品種と栽培技術 ⑦ウメの品種と栽培技術 ⑧スモモ類の品種と栽培技術	徳永 忠士	3 0 2.0	講義	期末試験 小テスト 学習態度	新版：果樹栽培の基礎 （農文協） プリント パワーポイント

		る。	⑨その他落葉果樹の品種と特性 ⑩カンキツ類の品種と栽培技術 ⑪ウンシュウミカンの品種と栽培技術					
2 年 前期	花き栽培各論	本県で栽培されている主要な花きの栽培方法について、生育相や開花調整技術等を通じて理解する。 また、花きの名称や主要な産地や経営面についても学ぶ。	①花き苗の生産 ②鉢花の生産 ③観葉植物の生産 ④キク栽培の概要と露地栽培 ⑤キクの施設栽培 ⑥シンビジウムの生産 ⑦ファレノプシス、オンシジウムの生産 ⑧花木の生産 ⑨主要な花きの名称と産地・トルコギキョウの生産 ⑩スターチス類の生産 ⑪ヒマワリ、ケイトウの生産 ⑫ストックの生産 ⑬アスター、デルフィニウムの生産 ⑭カーネーションの生産 ⑮ユリ類の生産	大和 明弘	3 0 2. 0	講義	期末試験 小テスト 学習態度	新版：草花栽培の基礎 (農文協)
2 年 前期	家畜飼養衛生	畜産物の安全かつ持続的な生産を行うために、家畜飼養、畜産物利用、家畜の疾病予防および衛生対策について学び理解させる。	①人間と家畜 ②家畜の改良と繁殖 ③家畜の栄養 ④家畜の消化生理 ⑤家畜の飼料 ⑥畜産物の利用(食肉及び肉製品) ⑦畜産物の利用(牛乳及び乳製品) ⑧持続的かつ発展的な畜産 ⑨家畜衛生の役割と重要性 ⑩家畜疾病の感染と発病 ⑪人獣共通感染症 ⑫家畜の飼養衛生管理基準と疾病の予防(消毒・ワクチン) ⑬牛の疾病 ⑭豚の疾病 ⑮鶏の疾病	吉田 雅規 (14) 林 和徳 (16)	3 0 2. 0	講義	期末試験 小テスト 学習態度	家畜飼育の基礎 (農文教) 飼養衛生管理基準 (農水省) プリント パワーポイント
2 年 前期	植物生理学	植物の生理現象について、基礎的な事項を理解する。	①植物生理学とは ②光合成と代謝(1) ③光合成と代謝(2) ④光合成と代謝(3) ⑤発生と形態形成(1) ⑥発生と形態形成(2) ⑦発生と形態形成(3) ⑧環境(1) ⑨環境(2) ⑩環境(3) ⑪成長と植物ホルモン(1) ⑫成長と植物ホルモン(2) ⑬成長と植物ホルモン(3) ⑭栄養 ⑮まとめ	田中 昭人	3 0 2. 0	講義	期末試験 小テスト 学習態度	絵とき植物生理学入門 (オーム社) プリント
2 年 後期	農業気象学	農業生産における最大の制限要素である「気象」及び近年関心が高まる地球温暖化について、農業への影響を学習する。	①農業気象学について ②気象観測と気象現象(1) ③気象観測と気象現象(2) ④気象と農業への利用(1) ⑤気象と農業への利用(2) ⑥農業気象災害と対策 ⑦地球温暖化について ⑧気象業務の紹介	阿部 成人 徳島地方気象台	1 6 1. 0	講義	期末試験 学習態度 出席状況	プリント 関係資料
2 年 後期	高度技術演習	農林水産総合技術支援センターにおける試験研究・調査研究の現状と成果を紹介し、徳島県農業の課題と解決策を探る。	①藍・山菜等に関する技術開発や研究成果について ②野菜・花きに関する技術開発や研究成果について ③経営流通に関する研究成果 ④スマート農業に関する技術開発や研究成果について ⑤果樹に関する技術開発や研究成果について ⑥森林資源に関する技術開発や研究成果について ⑦生産環境に関する技術開発や研	各課研究員 (片山 環奈)	1 6 1. 0	演習	レポート 学習態度 出席状況	関係資料 パワーポイント

			究成果について ⑧病害虫等に関する技術開発や研究成果について ⑨牛に関する技術開発や研究成果について ⑩養豚に関する技術開発や研究成果について ⑪養鶏に関する技術開発や研究成果について					
2 年後期	特産物生産	徳島県における地域農業の伝統的な特産物等について理解を深め、これら貴重な地域資源の活用方法など幅広い知識を学習する。	①徳島県内で生産される特産作物 ②山菜(たらのめ、山ふき他) ③茶栽培と阿波晩茶 ④雑穀・そば ⑤つまもの(彩)他 ⑥阿波藍・和三盆・こんにやく ⑦林産物(みつまた、菌茸類) ⑧野生鳥獣による被害と対策	高木 一文	1 6 1. 0	講義	期末試験 小テスト 学習態度	プリント 関係資料
2 年前・後期	卒論演習Ⅱ	プロジェクト学習における成果のまとめ方や卒業論文の書き方、発表方法等について理解を深める。	①プロジェクトの見通しをたてる ②データの集計方法と評価 ③データの検証、仮説の確かさ、有効性の評価 ④中間検討結果と意見の反映 ⑤論文の再構築 ⑥プレゼンテーション演習 ⑦記述上の約束事等の理解 ⑧目標をふりかえる	村田 光稔	3 0 2. 0	演習	出席状況 学習態度 提出物 取組姿勢 演習シート 記載内容	自作資料

専門教科（食品・流通）（2 年次生）

時期	科目名	学習のねらい	授業計画	担当教官 (補助教官)	時間 単位	履修 方法	評価方法	教 材
2 年前期	食の安全・安心	食品の安全性等について正しく理解する。	①食品安全入門 ②食の安全を脅かす可能性のある危害要因 ③食料調達のために使用されるものの ④食の安全を守る仕組みと制度	庄野 久美子	1 6 1. 0	講義	期末試験 小テスト レポート 学習態度	食品安全 検定テキスト (中央法規) プリント

専門教科（経営）（2 年次生）

時期	科目名	学習のねらい	授業計画	担当教官 (補助教官)	時間 単位	履修 方法	評価方法	教 材
2 年前期	マーケティング論	マーケティングの概念やマーケティング活動のプロセスを学び、マーケティング的な視点による企業(経営体)の行動理解や自身の課題解決の一助とする。	①現代市場とマーケティング① ②現代市場とマーケティング② ③消費者行動 ④市場調査 ⑤製品政策 ⑥価格政策 ⑦チャネル政策 ⑧プロモーション政策	藤村 健司	1 6 1. 0	講義	期末試験 学習態度 出席状況	マーケティング (東京法令出版) 関係資料 プリント

専門教科（社会・経済）（2 年次生）

時期	科目名	学習のねらい	授業計画	担当教官 (補助教官)	時間 単位	履修 方法	評価方法	教 材
2 年前期	経営戦略論	経営や起業に際して必要となる知識や実践力について、講義や演習を通して学習する。	①市場とは ②商品力の基礎 ③販売力の基礎 ④原価計算の知識 ⑤競争力の源泉 ⑥販売戦略 ⑦リスクマネジメント ⑧経営者としての判断力とは	長尾 辰彦 県内農業経営者	1 6 1. 0	講義 演習	小テスト レポート 学習態度 出席状況	ビズストームで学ぶビジネスの基本 (ビズストーム研究会著) パワーポイント

								資料等
2 年 後期	農業経営と 組織論	農業経営を実践 するために必要な 基礎知識や農業・ 農村の中で農業者 がかかわる組織の 特徴や活動につい て、県内の事例を ふまえながら学 ぶ。	①日本農業の発展 ②日本農業の特徴 ③地域農業の担い手・世界的に見 た日本農業 ④農業生産の要素と農業経営目標 ⑤生産諸要素の合理的結合 ⑥経営活動の成果とそのとらえ方 ⑦経営診断の指標 ⑧経営改善の基本的な手法 ⑨農産物の販売と流通 ⑩生産資材の選択と購入・資金の 調達・労働力の調達 ⑪農業経営と農業協同組合 ⑫家族経営の長所と弱点 ⑬集団活動とその展開 ⑭農業経営と農業団体 ⑮日本と世界の農業政策	南 明信	3 0 2. 0	講義	期末試験 小テスト 学習態度 出席状況	農業経営 (実教出 版) 補足資料
2 年 後期	地域経済論	地域経済の仕組 みや現在の課題、 活性化に向けての 取り組みなどにつ いて、徳島県の経 済・産業などを関 わらせながら学 ぶ。	①地域経済の歴史 ②社会の動きと地域経済 ③徳島県地域経済の基礎知識 ④地域経済に影響を及ぼす要因 ⑤地域産業の一分野としての農業 ⑥地域の成長企業の実例 ⑦2050年の地域経済予測 ⑧お金のはなし	大沼 亮	1 6 1. 0	講義	期末試験 学習態度 出席状況	プリント 関係資料
2 年 後期	農業政策	日本及び徳島県 における農政の現 状を理解するとと もに様々な時事事 例を検討し、将来 自らが営む農業と 農業政策の関連に ついて学習する。	①農政の推移と日本農業の現状 ②国の農業政策 ③県の農業政策 ④担い手対策 ⑤生産振興への取組 ⑥ブランド戦略への取組 ⑦輸出推進への取組 ⑧中山間地域対策 ⑨野生鳥獣被害対策 ⑩農政時事事例研究(農福連携1) ⑪農政時事事例研究(農福連携2) ⑫農政時事事例研究(有機農業1) ⑬農政時事事例研究(有機農業2) ⑭農政時事事例研究(補助事業) ⑮農政時事事例研究(農地法関係)	水口 潔	3 0 2. 0	講義	学習態度 出席状況 レポート	プリント 関係資料
2 年 後期	環境と農業	環境の基本的な 現状と問題を学習 すると共に、環境 と共存する農業の あり方について学 習する。併せて有 機農業や環境保全 型農業について学 ぶ。	①人間と環境 ②公害の発生と法規制 ③水資源と人間活動 ④都市の環境問題と自然 ⑤人間活動による大気汚染 ⑥化学物質と環境 ⑦地球環境問題 ⑧地球温暖化とCO ₂ ⑨低炭素社会の構築 ⑩森林破壊と生物多様性 ⑪循環型社会の構築 ⑫環境保全型農業と有機農業 ⑬そもそも有機農業とは ⑭有機農業を科学的に考える ⑮環境と農業の振り返り	村田 光稔	3 0 2. 0	講義	期末試験 小テスト 学習態度	新しい環 境科学 (駿河台 出版社)

専門教科（農業生産技術コース選択）（2 年次生）

時期	科目名	学習のねらい	授業計画	担当教官 (補助教官)	時間 単位	履修 方法	評価方法	教 材
2 年 前期	G A P 演習	G A P の基本的 な考えから県G A P、J G A P、 A S I A G A P、 G L O B A L G A P を幅広く演習す る。	①日本農業の現況とG A P 導入 ②フードチェーンとG A P・H A C C P ③オリンピック後のステージ3 国 際水準G A P ④国際水準G A P ガイドラインの 指導項目の留意点 ⑤安2 G A P 事例演習	赤井 昭雄	1 6 1. 0	講義	出席状況 学習態度	プリント 関係資料

			⑥直売所は生産者と消費者を安心でつなぐ架け橋					
2 年 前期	農業体験学習（必須）	先進的な農業経営や地域農業の実態を体験し、高度な知識及び技術並びに企業的な経営管理能力を養う。	①県内先進的農業者・法人等での体験	県内農業経営体等	3 6 1. 0	実習	出席状況 発表内容	
2 年 前期	コース実習Ⅲ（必須）	互いに協力し合いプロジェクトや模擬会社の目標達成に向け粘り強く実践するとともに、幅広く作業体験を積み重ねることにより、農業生産技術の改善に関する問題解決の視野を広げる。	①プロジェクト課題品目の栽培・飼養管理技術の習得 ②安全で効率的な作業手順を1年次生へ助言 ③模擬会社の運営体制を反映した協力体制を1年次生へ助言 ④計画に沿った調査、データ収集等進捗管理と達成状況の把握 ⑤中間検討プレゼンテーション ⑥模擬会社商品としての生産技術課題の地域への波及方法の検討	農業生産技術コース担当	244 8. 0	実習	学習態度 出席状況 自己評価	関係資料
2 年 後期	コース実習Ⅳ（必須）	プロジェクトの実践過程や得られた成果のとりまとめを通して、卒業後、社会で必要とされる問題解決能力を養うとともに成果の自家経営への導入検討や地域農業への提案を行う。	①プロジェクトの総括と振り返り ②多種多様な作業体験やプロジェクトへの取り組みで得られた知見や感覚の発展応用の検討 ③中間検討及び成果発表演習 ④発表演習を通して自己や他者の発表に対する適正な評価の視点を学ぶ ⑤農産物生産の視点から模擬会社運営体制改善への提言 ⑥模擬会社商品としての生産技術成果の地域への提案	農業生産技術コース担当	358 11. 5	実習	学習態度 出席状況 自己評価	関係資料
2 年 後期	卒業論文（必須）	プロジェクト研究成果を卒業論文としてまとめる。	①緒言 現状分析を深め、目的と立証したい仮説を再確認する。 ②材料及び方法 試験研究の再現性を重視した記述を行う。 ③結果 得られたデータや成果を適切に記述する。 ④考察 得られた成果から仮説を検証する。 ⑤要約 論文の全過程を正確に把握し要点をとりまとめる。	農業生産技術コース担当	120 8. 0	演習	出席状況 学習態度 成果発表 卒業論文 評価	

専門教科（6次産業ビジネスコース選択）（2年次生）

時期	科目名	学習のねらい	授業計画	担当教官 (補助教官)	時間 単位	履修 方法	評価方法	教 材
2 年 前期	H A C C P 演習	食品の安全性を向上させるための国際基準であるHACCPを把握する。	①HACCPの概要 ②食品衛生の中のHACCP ③HACCPを支える一般衛生管理 ④HACCPプランの作り方 ⑤HACCP実技演習1 ⑥HACCP実技演習2 ⑦CCPの決定 ⑧持続可能なHACCP運用(県版HACCP)	森本 尚子 (庄野久美子)	1 6 1. 0	講義 演習	期末試験 学習態度 出席状況	パワーポイント
2 年 前期	新ビジネス 創造	地域活性化の視点での6次産業化の商品作りからブランディングまでの実践学習を行う。 またビジネスとして農業を発展させる手法についても学ぶ。	①地域活性化の概要 ②6次産業化とは ③ブランディング講習 ④商品作りのプロセス ⑤実践講習 ⑥グループワーク ⑦目標設定について	橋本 太郎 (庄野久美子)	1 6 1. 0	講義 演習	レポート 学習態度 出席状況	プリント パワーポイント
2 年 前期	食品産業特別講義	6次産業化の取組に必要な知識・	①6次産業化県内取組事例 ②売れるパッケージ、ブランドづ	県内食品関連企業経営	1 6 1. 0	講義 演習	学習態度 出席状況	関係資料 パンフレ

		技術や感覚について、企業家や関係機関等による講義を通して学ぶ。	くり ③販売戦略の立て方 ④商品企画開発の実際 経営者・企画開発者の立場から ⑤実習	者 (片山 環奈)			レポート	ット等
2 年 前期	6 次産業体 験学習 (必 須)	一般的な農業生産活動にとどまらず高付加価値農業を展開している農業経営体や流通・販売、資材・機械、食品企業等の農業を取り巻く幅広い業界で、体験学習する。	①県内企業体的経営体、食品加工・流通企業等での体験学習	県内企業体 等	3 6 1. 0	実習	出席状況 発表内容	
2 年 前期・後 期	パッケージ デザイン	デザインとブランディングの基礎知識を学びながら、自分の商品の持つ価値を見つけ出し、コンセプトシートに視覚化することを目指す。商品の世界観や想いを視覚的な表現へと落とし込む。デザインツールの基本的な操作方法を習得しながら、商品の魅力が効果的に伝わるパッケージデザインの制作に取り組む。	①デザインの基礎・優れたパッケージ紹介・コンセプトシート作成 ②コンセプトシート発表・ネーミング作成 ③ネーミング発表・ポジショニング ④ブランディング戦略 ⑤デザイン制作実習 1 ⑥デザイン制作実習 2 ⑦パッケージ作成 ⑧パッケージデザイン発表	岩佐 悠嗣	1 6 1. 0	講義 演習	出席状況 作品提出	関係資料
2 年 前期	コース実習 Ⅲ (必須)	互いに協力し合いプロジェクトや模擬会社の目標達成に向け粘り強く実践するとともに、幅広く作業体験を積み重ねることにより、問題解決に対する視野を広げる。	①プロジェクト課題品目の栽培・飼養管理技術の習得 ②安全で効率的な作業手順を 1 年次生へ助言 ③模擬会社の運営体制を反映した協力体制を 1 年次生へ助言 ④計画に沿った調査、データ収集等進捗管理と達成状況の把握 ⑤中間検討プレゼンテーション ⑥商品開発に向けた企画、製造等の作業工程管理及び流通・販売戦略の検討	6 次産業ビ ジネスコー ス担当	220 7. 0	実習	学習態度 出席状況 自己評価	関係資料
2 年 後期	コース実習 Ⅳ (必須)	プロジェクトの実践過程や得られた成果のとりまとめを通して、卒業後、社会で必要とされる問題解決能力を養うとともに成果の自家経営や地域農業、地域産業への普及・貢献方法について考える。	①プロジェクトの総括と振り返り ②多種多様な作業体験やプロジェクトへの取り組みで得られた知見や感覚の発展応用の検討 ③中間検討及び成果発表演習 ④発表演習を通して自己や他者の発表に対する適正な評価の視点を学ぶ ⑤新商品開発の視点から模擬会社運営体制改善への提言 ⑥開発商品の地域農業や地域産業への提案	6 次産業ビ ジネスコー ス担当	334 11. 0	実習	学習態度 出席状況 自己評価	関係資料
2 年 後期	卒業論文 (必須)	プロジェクト研究成果を卒業論文としてまとめる。	①緒言 現状分析を深め、目的と立証したい仮説を再確認する。 ②材料及び方法 試験研究の再現性を重視した記述を行う。 ③結果 得られたデータや成果を適切に記述する。 ④考察 得られた成果から仮説を検証する。 ⑤要約 論文の全過程を正確に把握し要点をとりまとめる。	6 次産業ビ ジネスコー ス担当	120 8. 0	演習	出席状況 学習態度 成果発表 卒業論文 評価	

(3) 指定科目 (資格取得教科)

時期	科目名	学習のねらい	授業計画	担当教官 (補助教官)	時間 単位	履修 方法	評価方法	教 材
前期 1 年 次生 のみ 対象	英語試験対策講座Ⅰ	TOEIC550点以上 取得を目指す。	①進学に向けたTOEIC受験のための 学習 (TOEIC550点以上)	小川めぐみ	1 6 1.0	講義 演習	出席状況 学習態度	Effective Approaches to the TOEIC L&R Test (南 雲堂)
後期 2 年 次生 のみ 対象	英語試験対策講座Ⅱ	TOEIC550点以上 取得を目指す。	①編入学予定者に向けたTOEIC受験 のための学習 (TOEIC550点以上)	小川めぐみ	1 6 1.0	講義 演習	出席状況 学習態度	Effective Approaches to the TOEIC L&R Test (南 雲堂) TOEIC(R) L&R テスト書 き込みトータル 【スコア500 플러스】言いま わし編 (桐原書 店)
前期 1 年 次生 のみ 対象	パソコン検 定対策講座	日本情報処理検 定協会が主催する 情報処理技能検 定試験「表計算」の合 格を目指す。	検定試験 (3 級) 合格のための 学習	藤井 貞仁	2 0 1.0	演習	出席状況 学習態度	令和7年 度問題集 3・4級編
前期	家畜人工授 精師 ※隔年開講	家畜人工授精師 の資格取得を目指 す。	①畜産概論 (講義) ②家畜の栄養 ③家畜の飼養管理 ④家畜の育種 ⑤関係法規 ⑥生殖器解剖 ⑦繁殖生理 ⑧精子生理 ⑨種付けの理論 ⑩人工授精 ⑪家畜の飼養管理 (実習) ⑫家畜の審査 ⑬生殖器解剖 ⑭発情鑑定 ⑮精液精子の検査 ⑯人工受精	畜産振興課 畜産研究課 家畜保健衛 生所職員 (吉田 雅規)	140 9.0	講義 実習	出席状況 修了試験	
前期	家畜商 ※隔年開講	家畜商の資格取 得を目指す。	①家畜の取引に関する法令 ②家畜の品種及び特徴 ③家畜の悪癖、機能障害及び疾病	畜産振興課 畜産研究課 職員 (吉田 雅規)	1 6 1.0	講義	出席状況	
後期	危険物取扱 者	危険物取扱資格 取得を目指す。	①集中講義による危険物資格取得 のための学習	未定	1 6 1.0	演習	出席状況 学習態度	受験用テ キスト
後期	毒物劇物取 扱者	毒劇物取扱資格 取得を目指す。	①集中講義による毒物劇物取扱者 資格取得のための学習	秋月 学	1 6 1.0	演習	出席状況 学習態度	受験用テ キスト
後期	農業技術の 基礎	日本農業技術検 定協会が実施する 農業技術検定 (2 級) の受験にむけ た対策。	①集中講義による農業技術検定 (2 級) の合格のための学習	未定	1 6 1.0	講義	出席状況 学習態度	受験用テ キスト
後期	農業機械実 習 ※1 年 次 生 は大特のみ	農作業に必要な 大型特殊 (農耕用 限定) 免許やけん 引 (農耕用限定) 免 許取得を目指す。	①トラクタおよびけん引車両の構 造の理解と安全な使用法 ②道路交通法を遵守した道路上で の安全運転の方法	所 洋志 各 コース 職 員	3 2 1.0	実習	出席状況 学習態度	プリント

後期	フォークリフト実習	フォークリフトの運転・操縦技術の習得を目指す。	①フォークリフトの構造の理解 ②安全な運転および操縦の技術	所 洋志	(48) (一)	実習	出席状況 学習態度	プリント
後期	土壌医検定(2級)対策講座	土壌医検定(2級)試験合格を目指す。	①既出問題集による過去問対策を中心とした土壌医検定(2級)合格のための学習	阿部 成人	16 1.0	講義	出席状況 学習態度	土壌診断と作物生育改善・既出問題集(日本土壌協会)
後期	土壌医検定(3級)対策講座	土壌医検定(3級)試験合格を目指す。	①既出問題集による過去問対策を中心とした土壌医検定(3級)合格のための学習	阿部 成人	16 1.0	講義	出席状況 学習態度	土づくりと作物生産・既出問題集(日本土壌協会)
後期	狩猟免許対策講座	狩猟免許の取得を目指す。	①野生鳥獣の管理 ②わな猟及び第一種猟銃の免許取得について	県鳥獣対策担当(藤村健司)	(8) (一)	講義	出席状況	受験用テキスト

(4) 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

① 1 年次生

専門教科(栽培・飼養管理)

科目名	学習のねらい	担当教官 (補助教官)	履修時間 ／単位		実務経験
農業基礎	農業と私たちの暮らしとの関わりについて学ぶとともに、農業技術の基礎を学び、農業機械や土壌肥料、施設園芸等の高度・専門的な技術習得へ発展させる基礎とする。	乾 千紘 所 洋志	16	1.0	普及指導員経験
作物	水稻の品種、栽培管理法、米の利活用および麦類・大豆の品種、栽培管理概要について理解するとともに、本県の実情を把握する。	石田 和宏	30	2.0	普及指導員経験
野菜園芸	野菜に関する基本的な知識や栽培管理、園芸技術について知る。	服部 弘明	30	2.0	普及指導員経験
果樹園芸	果樹に関する基本的な技術や栽培管理について知る。	津村 哲宏	30	2.0	普及指導員経験
花き園芸	花き生産の基礎となる生育・開花生理並びに基礎栽培技術・新栽培技術を習得するとともに、花き経営、花きを巡る情勢等も理解する。	東條 浩章	30	2.0	普及指導員経験
農業機械学	農業機械の主な作業機や機械の構造、安全な使用について学ぶ。	所 洋志	16	1.0	普及指導員経験
植物防疫学	作物を病害虫から守るため、主な病原体や害虫の生態、病虫害の症状、防除法、農薬について学ぶ。	坂口 謙二	30	2.0	普及指導員経験
土壌肥料学	農作物の生育に必要な土壌環境、生物生育と土壌の化学性、物理性、生物性の関連、農作物の養分吸収及び施肥設計について学習する。	井上 眞一	16	1.0	普及指導員経験
実用計算	栽培技術や経営技術に必要な各種計算方法等を学習し経営分析に活用する。	赤井 昭雄	16	1.0	普及指導員経験
農業簿記	農業経営と家計分の記帳の分離により、農業経営の現状と将来の経営計画のために農業簿記を学習する。	西岡 稔晴	20	1.0	農業会議にて簿記指導経験
畜産	畜産物を生産するための基本的な技術と本県における生産動向や畜産の最新技術情報について学ぶ。	吉田 雅規 井上 眞一	30	2.0	畜産研究業務経験 普及指導員経験
基礎演習 (農学実験)	果実分析や各種観察等の演習を通して、農学の基礎能力の向上をめざす。バイオテクノロジーの基本的な作業管理を学ぶ。	阿部 成人 吉田 雅規 乾 千紘	20	1.0	普及指導員経験 畜産研究業務経験 農業大学校教員経験

		川村 泰史			験
基礎演習 (情報処理)	パソコンのビジネスソフトである表計算・文章作成・プレゼンテーションの基本的スキルを習得する。インターネットでの検索・情報収集の方法を学ぶ。	藤井 貞仁	2 0	1.0	大手外食系企業にて人材育成プログラム、コンサルタント経験
基礎演習 (作業演習)	農作業で使用する農具の適切な使い方、農業機械の構造と適切な使用、整備と管理及びドローンの活用と操作を学ぶ。	東條 浩章 所 洋志 藤岡 敏明 中四国クボタ	2 0	1.0	普及指導員経験 農業大学教員経験 農業機械企業従事
卒論演習 I	プロジェクトの課題設定から試験設計にいたる進め方を学び、計画書を作成する。	村田 光稔	1 6	1.0	普及指導員経験
小 計			3 4 0	-	

専門教科（食品・流通）

科目名	学習のねらい	担当教官 (補助教官)	履修時間 ／単位		実務経験
農業・食品加工基礎実習	班編制により、果樹、作物・野菜、花き、土壌分析、食品加工及び畜産飼養管理について学び、進路選択やプロジェクト課題検討の参考とする。	各分野担当 畜産研究課	3 2	1.0	普及指導員経験 試験研究機関従事
食品栄養・機能学	食品に含まれる栄養成分の性状や機能、食品成分と色、味、香りとの関わりや加熱による変化等について学ぶ。	渡邊 幾子	3 0	2.0	四国大学名誉教授 ・特別研究員
農産物・食品流通特論	県内大手量販店であるキョーエイの流通・販売の取り組みや現状、今日的な課題について理解を深める。	小出 直史 (片山 環奈)	1 6	1.0	キョーエイすきとく市部 部長
小 計			7 8	-	

専門教科（経営）

科目名	学習のねらい	担当教官 (補助教官)	履修時間 ／単位		実務経験
6次産業化概論	6次産業化を図る際に必要な知識について講義・演習を通して学ぶ。	長尾 辰彦	1 6	1.0	中小企業診断士
小 計			1 6	-	

専門教科（社会・経済）

科目名	学習のねらい	担当教官 (補助教官)	履修時間 ／単位		実務経験
地域農業	本県地域農業の現状や課題、今後の方向や普及指導機関による支援活動について知見を深め、地域農業の中核的役割を担う人材としての資質向上をめざす。	各農業支援センター所長 (村木 朋美)	1 6	1.0	普及指導員経験
小 計			1 6	-	

専門教科（農業生産技術コース選択）

科目名	学習のねらい	担当教官 (補助教官)	履修時間 ／単位		実務経験
スマート農業	施設栽培等におけるスマート農業について事例をふまえながら学習する。	阿部 成人 誠和 中四国クボタ	1 6	1.0	普及指導員経験

ドローン講習	ドローン操縦者のライセンス取得を目指して、講義・実機操縦・受験資格取得まで一貫して学ぶ。	外部委託講師 (東條 浩章)	3 0	2.0	普及指導員経験
農業体験学習 (必須)	先進的な農業経営や地域農業の実態を体験し、高度な知識や技術及び企業的な経営管理能力を養う。	県内農業経営 体等	7 2	2.0	
コース実習Ⅰ (必須)	農作物や家畜の栽培・飼養管理体験を通して、将来の農業との関わり型を明確にする。	農業生産技術 コース職員	1 4 4	4.5	普及指導員経験
コース実習Ⅱ (必須)	農業生産技術の深化に関するプロジェクト課題を設計し、計画作成、発表練習を行う。	農業生産技術 コース職員	3 0 8	10.0	普及指導員経験
小 計			5 7 0	—	

専門教科（6次産業ビジネスコース選択）

科目名	学習のねらい	担当教官 (補助教官)	履修時間 ／単位		実務経験
食品加工学	食品加工の目的や意義を知り、加工の手法や原理および食品素材の特徴を学び、貯蔵・保存の原理を習得する。	森松 文毅	1 6	1.0	徳島大学教授
食品衛生学	食品に起因する健康被害及び微生物による中毒について、それら疾病の特徴や危害因子の特性及び防止方法の基礎的知識を学ぶ。さらに、食品の安全性を確保するための食品衛生の重要性について学習する。また、一般生菌数の測定など、微生物検査について実験を行う。	岡崎 貴世	3 0	2.0	四国大学教授
食品加工実習	六次産業化研究施設に設置された機器を利用し、実習をととして使用方法及び加工技術を学ぶ。	庄野 久美子 吉田 理恵	1 6	0.5	普及指導員経験 農業大学校教員経験
6次産業体験 学習（必須）	単なる農業生産にとどまらず高付加価値農業を展開している農業経営体や流通・販売、資材・機械、食品企業等の農業を取り巻く幅広い業界で、体験学習する。	県内企業体等	7 2	2.0	
コース実習Ⅰ (必須)	農作物や家畜の栽培・飼養管理及び加工と商品化を通して、将来の農業との関わり方を明確にする。	6次産業ビジ ネスコース職員	1 2 8	4.0	普及指導員経験
コース実習Ⅱ (必須)	6次産業化の深化に関するプロジェクト課題を設計し、計画作成、発表練習を行う。	6次産業ビジ ネスコース職員	3 0 8	10.0	普及指導員経験
小 計			5 7 0	—	

② 2 年次生

専門教科（栽培・飼養管理）

科目名	学習のねらい	担当教官 (補助教官)	履修時間 ／単位		実務経験
野菜栽培各論	野菜の基礎的な栽培管理と本県現地における実践的な生産動向や最新技術情報について学ぶ。	南 利夫	3 0	2.0	普及指導員経験
果樹栽培各論	我が国における主要果樹の品種特性や最新の栽培技術について学ぶ。また、本県独自の果樹栽培について、生産から流通販売までを理解する。	徳永 忠士	3 0	2.0	果樹研究業務経験 普及指導員経験
花き栽培各論	本県で栽培されている主要な花きの栽培方法について、生育相や開花調整技術等を通じて理解する。また花きの名称や主要な産地や経営面についても学ぶ。	大和 明弘	3 0	2.0	花き研究業務経験 普及指導員経験
家畜飼養衛生	畜産物の安全かつ持続的な生産を行うために、家畜飼養・畜産物利用・家畜の疾病予防および衛生対策について学び理解させる。	吉田 雅規 林 和徳	3 0	2.0	畜産研究業務経験 普及指導員経験
植物生理学	植物の生理現象について、基礎的な事項を理解する。	田中 昭人	3 0	2.0	研究業務経験 普及指導員経験

農業気象学	農業生産における最大の制限要素である「気象」及び近年関心が高まる地球温暖化について、農業への影響を学習する。	阿部 成人 徳島地方気象台	1 6	1.0	普及指導員経験
高度技術演習	農業の直面する課題を集約するとともに、農林水産総合技術支援センターにおける試験研究・調査研究の現状と成果を紹介し、徳島県農業の問題点と解決策を探る。	各課研究員 (片山 環奈)	1 6	1.0	研究業務経験 普及指導員経験
特産物生産	徳島県における地域農業の伝統的な特産物等について理解を深め、これら貴重な地域資源の活用方法など幅広い知識を学習する。	高木 一文	1 6	1.0	普及指導員経験
卒論演習Ⅱ	プロジェクト学習における成果のまとめ方や卒業論文の書き方、発表方法等について理解を深める。	村田 光稔	3 0	2.0	普及指導員経験
小 計			2 2 8	—	

①～③は選択科目

専門教科（食品・流通）

科目名	学習のねらい	担当教官 (補助教官)	履修時間 ／単位		実務経験
食の安全・安心	食品の安全性等について正しく理解する。	庄野 久美子	1 6	1.0	普及指導員経験
小 計			1 6	—	

専門教科（経営）

科目名	学習のねらい	担当教官 (補助教官)	履修時間 ／単位		実務経験
マーケティング論	マーケティングの概念やマーケティング活動のプロセスを学び、マーケティング的な視点による企業(経営体)の行動理解や自身の課題解決の一助とする。	藤村 健司	1 6	1.0	普及指導員経験
小 計			1 6	—	

専門教科（社会・経済）

科目名	学習のねらい	担当教官 (補助教官)	履修時間 ／単位		実務経験
経営戦略論	経営や起業に際して必要となる知識や感覚について講義・演習を通して学習する。	長尾 辰彦	1 6	1.0	中小企業診断士
農業経営と組織論	農業経営を実践するために必要な基礎知識や農業・農村の中で農業者がかかわる組織の特徴や活動について、県内の事例をふまえながら学ぶ。	南 明信	3 0	2.0	普及指導員経験
地域経済論	地域経済の仕組みや現在の課題、活性化に向けての取り組みなどについて、徳島県の経済・産業などをかわらせながら学ぶ。	大沼 亮	1 6	1.0	徳島文理大学教授経験
農業政策	日本及び徳島県における農政の現状を理解するとともに、様々な時事事例が検討し将来自らが営む農業がどのような政策のもとにあるのかについて学習する。	水口 潔	3 0	2.0	普及指導員経験
環境と農業	環境の基本的な現状と問題を学習すると共に、環境と共存する農業のあり方について学習する。併せて有機農業や環境保全型農業について学ぶ。	村田 光稔	3 0	2.0	普及指導員経験
小 計			1 2 2	—	

専門教科（農業生産技術コース選択）

科目名	学習のねらい	担当教官 (補助教官)	履修時間 ／単位		実務経験
GAP演習	GAPの基本的な考え方から県GAP、JGAP、ASIAGAP、GLOBALGAPを幅広く演習する。	赤井 昭雄	16	1.0	普及指導員経験
農業体験学習	先進的な農業経営や地域農業の実態を体験し、高度な知識及び技術並びに企業的な経営管理能力を養う。	県内農業経営体等	36	1.0	
コース実習Ⅲ (必須)	計画に沿って互いに協力し合いながらプロジェクトを粘り強く実践する。	農業生産技術コース担当	244	8.0	普及指導員経験 農業大学校教員経験
コース実習Ⅳ (必須)	計画に沿って農作物・家畜等を栽培管理・調査研究を通して、社会で必要な問題解決能力を養成する。	農業生産技術コース担当	358	11.5	普及指導員経験 農業大学校教員経験
卒業論文	プロジェクト研究成果を卒業論文としてまとめる。	農業生産技術コース担当	120	8.0	普及指導員経験
小 計			774	—	

専門教科（6次産業ビジネスコース選択）

科目名	学習のねらい	担当教官 (補助教官)	履修時間 ／単位		実務経験
HACCP演習	食品の安産性を向上させるための国際基準であるHACCPを把握する。	森本 尚子	16	1.0	民間企業の食品安全管理担当
新ビジネス創造	地域活性化の視点での6次産業化の商品作りからブランディングまでの実践学習を行う。またビジネスとして農業を発展させる手法について学ぶ。	橋本 太郎 (庄野久美子)	16	1.0	地域プランナー
食品産業特別講義	6次産業化の取組みに必要な知識・技術や感覚について、企業家や関係機関等による講義を学ぶ。	県内食品関連企業経営者 (片山 環奈)	16	1.0	
6次産業体験学習	一般的な農業生産活動にとどまらず高付加価値農業を展開している農業経営体や流通・販売、資材・機械、食品企業等の農業を取り巻く幅広い業界で、体験学習する。	県内企業体等	36	1.0	
パッケージデザイン	デザインとブランディングの基礎知識を学びながら、自分の商品の持つ価値を見つけ出し、コンセプトシートに視覚化することを目指す。 商品の世界観や想いを視覚的な表現へと落とし込む。デザインツールの基本的な操作方法を習得しながら、商品の魅力が効果的に伝わるパッケージデザインの制作に取り組む。	岩佐 悠嗣	16	1.0	Web・グラフィックデザイナー
コース実習Ⅲ (必須)	計画に沿って互いに協力し合いながらプロジェクトを粘り強く実践する。	6次産業ビジネスコース担当	220	7.0	普及指導員経験
コース実習Ⅳ (必須)	計画に沿って農作物栽培管理、加工・商品化を通して、社会で必要な問題解決能力を養成する。	6次産業ビジネスコース担当	334	11.0	普及指導員経験
卒業論文	プロジェクト研究成果を卒業論文としてまとめる。	6次産業ビジネスコース担当	120	8.0	普及指導員経験
小 計			774	—	

実務経験のある教員等による授業科目の単位時間数

1 年	栽培・飼養	食品・流通	経営	社会・経済	専門教科 (コース別)	合計
農業生産技術コース	3 4 0	7 8	1 6	1 6	5 7 0	1, 0 2 0
6 次産業ビジネスコース					5 7 0	1, 0 2 0

2 年	栽培・飼養	食品・流通	経営	社会・経済	専門教科 (コース別)	合計
農業生産技術コース	2 2 8	1 6	1 6	1 2 2	7 7 4	1, 1 5 6
6 次産業ビジネスコース					7 7 4	1, 1 5 6

2 年間

農業生産技術コース	2, 1 7 6
6 次産業ビジネスコース	2, 1 7 6

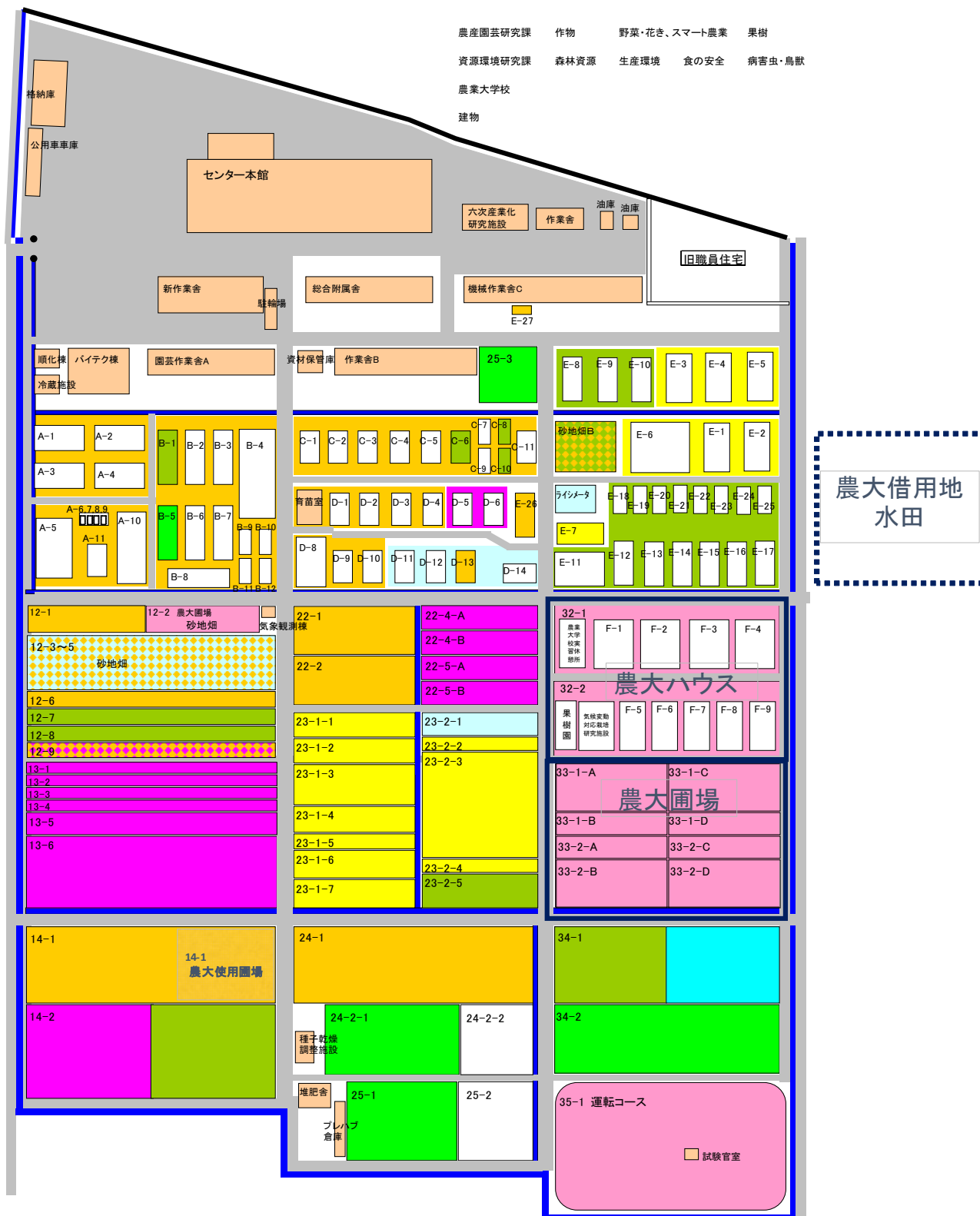
6 沿革、学校施設、ほ場図等

(1) 沿革

大正 2 年		徳島県農会の委託により、農事試験場において農業技術員の養成を開始
昭和 2 年	6 月	徳島県農業技術員養成所を農事試験場に併設
昭和 24 年	4 月	農業技術員養成所を廃止し、徳島県農業講習所を設置
昭和 41 年	4 月	農業講習所を廃止し、徳島県農業大学校を設置 農業大学校は本科（修業年限 2 年）及び実科（同 1 年）から成り、実科は農林関係 7 研究機関に分校として併設
昭和 42 年	3 月	名西郡石井町字石井 2202-1 に新築移転
昭和 45 年	4 月	本科課程を園芸及び畜産コースに再編するとともに研究科（修業年限 1 年）を設置
昭和 46 年	4 月	校歌を制定
昭和 56 年	4 月	農業改良助長法に基づき実践教育を重視した新農業大学校として再編
昭和 61 年	4 月	本科を農業課程に統合し、果樹、野菜、花き造園、畜産、生活の各専攻コースに再編
平成 4 年	4 月	農業機械研修業務を併合
平成 12 年	4 月	とくしまアグリテクノスクールを開講
平成 17 年	4 月	徳島県立農林水産総合技術支援センター農業大学校に組織変更 果樹、野菜、花き、畜産、経営の専攻コースを設置
平成 18 年	4 月	研究科の修業期間を 1 年又は 2 年とし、実科を廃止
平成 21 年	4 月	本科の専攻コースを生産技術、地域資源活用、アグリビジネスの 3 コースに再編、単位制を導入
平成 22 年	10 月	模擬会社「徳島農大そらそうじゃ」設立
平成 23 年	4 月	本科を学校教育法に基づく専修学校へ移行 公共職業訓練「ファームオペレーター養成科」を開講
平成 24 年	4 月	6 次産業化「農産物加工マイスター講座」を開講
平成 25 年	4 月	石井町石井字石井 1660 の農林水産総合技術支援センターに新築移転 とくしまアグリテクノスクールを拡充し、アグリビジネススクールとして開講
平成 29 年	4 月	アグリビジネススクールを再編し、「農業経営者育成コース」、「6 次産業化コース」、「テクノコース」として開講
平成 30 年	4 月	本科の専攻コースを農業生産技術コース、6 次産業ビジネスコースの 2 コースに再編、六次産業化研究施設を開所
	12 月	気候変動対応栽培研究施設設置
平成 31 年	4 月	アグリビジネススクールに「徳島かんきつアカデミー 中核的人材育成コース」と「徳島かんきつアカデミー 特定技術向上コース」を開講
令和 2 年	4 月	「アグリビジネスアカデミー」として「営農基礎コース」「営農技術向上コース」「6 次産業化コース」「徳島かんきつアカデミー」に再編
	7 月	「施設園芸アカデミー」を新設し、全 5 コースを開講
	8 月	旧果樹研究所（勝浦町）をリニューアルし「かんきつテラス徳島」をオープン

(2) 学校施設、ほ場図

農林水産総合技術支援センター 農業大学校 施設配置図



学校所在地

〒779-3233 名西郡石井町石井石井1660

ホームページ

電話(088)674-1026

QRコード

FAX(088)674-8129

<https://www.tonodai.ac.jp>



7 添付資料等

(1) 徳島農大そらそうじゃ 定款

第1章 総 則

(商号)

第1条 当社は、徳島農大 そら そうじゃ と称する。

(目的)

第2条 当社の経営理念を次のとおり定める。

- 一、私達は、若い力で地域社会の人々と同意と共感しあいながら豊かさを求める会社を目指します。
- 一、新技術の改良・開発に取り組むことで、地域社会と農家の皆様に貢献します。
- 一、徳島の隠れた資源を活用することで、地域の活力を呼び起こします。
- 一、消費者と生産者が共につくる、新しいアグリビジネスを創造します。
- 一、徳島の農業の発展に寄与する人材となるよう、自らを高めます。

第3条 前条に定める経営理念に基づき、当社は次の事業を営むことを目的とする。

- 1 農業大学校、各研究所で生産された農畜産物の販売及びその加工。
- 2 農業大学校、各研究所で開発された新技術や商品の流通企画、生産者等からの依頼による実証展示などの請負。
- 3 当社の主旨に賛同される生産者、組合、商工関係者からの生産物等を原材料とした商品開発、加工。
- 4 農業大学校の生産施設や教育機能を活用した農作業・収穫体験サービス。
- 5 前各号に附帯する一切の業務。

(本店の所在地)

第4条 当社は、本店を徳島県名西郡石井町石井字石井1660番地に置く。

第2章 株 式

(株式の保有)

第5条 当社は株式会社形態を基本とし、全株式は学生の保護者である農業大学校後援会（以下、後援会）が保有する。

(株式の譲渡制限)

第6条 当社の株式は、後援会以外の者に譲渡することはできない。

(株券)

第7条 当社の発行する株式の総数は、100株とする。

第8条 当社の株券は、1株券のみとする。

第3章 株主総会

(招集)

第9条 当社の定時株主総会は、営業年度末日の翌日から3ヶ月以内に招集し、臨時総会は、その必要がある場合に随時これを招集する。

- 2 定時株主総会は、毎年度卒業式の前日を基準として設定する。

(議長)

第10条 株主総会の議長は、社長がこれにあたる。社長に事故があるときは、あらかじめ社長の定めた順序により他の取締役がこれに代わる。

(決議)

第11条 株主総会の決議は、出席した議決権のある株主の賛成とあわせて、社員の過半数の賛成をもって決する。

第4章 取締役、監査役及び取締役会

(取締役及び監査役の員数)

第12条 当社の取締役は6名程度、監査役は3名程度とする。

(取締役及び監査役の選任)

第13条 当会社の取締役及び監査役は、3月に開催される株主総会において選任される。

(取締役及び監査役の任期)

第14条 取締役の任期はその就任後1年以内、監査役の任期はその就任後1年以内の最終の決算期に関する定時総会の終結の日に満了する。

2 補欠または増員により選任された取締役は、他の取締役の任期の残存期間と同一とする。

3 任期の満了前に退任した監査役の補欠として選任された監査役の任期は、退任した監査役の任期が満了すべき時までとする。

(取締役会の招集)

第15条 取締役会は、代表取締役がこれを招集するものとし、その通知は、各取締役及び各監査役に対して会日の3日前に発するものとする。ただし、緊急の必要があるときは、この期間を短縮することができる。

(代表取締役及び役付取締役)

第16条 当会社は、社長1名、代表権を有する副社長1名及び取締役4名を置き、取締役会の決議により、取締役の中から選任する。

2 取締役は、それぞれのコースから最低2名を基準に選出する。

3 代表取締役社長は会社を代表する。

4 取締役3名は各事業部(コース)の部長を兼ねる。

(業務執行)

第17条 社長は、当会社の業務を統轄し、代表取締役副社長、取締役兼事業部長は、社長を補佐してその業務を分掌する。

2 社長に事故があるときは、あらかじめ取締役会の定める順序に従い、他の取締役が社長の職務を代行する。

(報酬)

第18条 取締役及び監査役への報酬は支給しない。

第5章 計 算

(営業年度)

第19条 当会社の営業年度は年1期とし、毎年1月1日から12月31日までとする。

(利益の扱い及び配当)

第20条 株主への利益配当は、営業年度の決算期における総会の議決により、株主へ配当する。

2 事業活動の結果得られた利益は全て会社活動の経費として充当し、役員及び社員への一般的な報酬の支払いは行わない。

第6章 事業計画・報告及び褒賞

(事業計画)

第21条 当会社における事業活動は、事前に事業計画書(企画書)を作成しなければならない。

2 作成した事業計画は、代表取締役及び監査役が承認することによって事業実施することができる。

3 前号の手続きを得ない事業活動によって当会社が利益を得ることはできない。

(事業報告)

第22条 前条による事業計画は、その事業終了後、報告を行い、代表取締役及び監査役の承認を得なければならない。

2 農業大学校及び各研究所で生産された農畜産物を扱う場合は、事業継続中の毎月に、徳島県の定める手続きに準じて、生産物の販売報告を行わなければならない。

3 格別の事情がなく、前号の事業報告を行わなかったり、虚偽の報告を行った事業計画の責任者に対しては、代表取締役及び監査役は事業報告の実施の督促及び承認取り消し等の措置を講ずるものとする。

(褒賞)

第23条 特に業績優秀な者については、表彰等の褒賞を行い、その業績を讃える。

2 褒賞は、別途定める評価手法に基づき、原則として各事業部、プロジェクトチームなどを単位として行う。

第7章 附 則

(定款の変更)

第24条 本定款は、正式に公証人役場にて承認されたものではないが、当会社の事業展開及び学生の活動を規程するものとして策定する。

2 本定款の変更は、取締役会議の動議により、監査役の承認後、総会をもって議決する。

(最初の取締役及び監査役)

第25条 当会社の最初の取締役及び監査役は、次のとおりとする。

代表取締役社長	岡林 拓	(生産技術部)
代表取締役	河野 広晃	(地域資源活用部)
	正木 彩	(アグリビジネス部)
取締役兼事業部長	知賀 幸太	(生産技術部)
	武川 七恵	(地域資源活用部)
	多田 光希	(アグリビジネス部)
監査役	安岡 道博	農業大学校長
	久次米 靖章	後援会長
外部参与	小川 哲司	徳島商工会議所 業務推進室長

以上、徳島農大そらそうじゃの設立のため、本定款を作成する。

初 版：平成22年10月25日

最終改訂：平成31年 3月 5日

農業大学校長 安岡 道博

(2) 徳島県立農林水産総合技術支援センター農業大学校学校評価実施要領

(趣旨)

第1条 この要領は 学校教育法（第42条～第43条）及び学校教育法施行規則（第66条～第68条）に基づき、徳島県立農林水産総合技術支援センター農業大学校（以下「農業大学校」という。）が行う学校評価について定める。

(目的)

第2条 農業大学校は、当該大学校の教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき、学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めるものとする。

(評価の実施等)

第3条 評価は、農業大学校が自ら行う「自己評価」と、その評価結果に関して農業大学校の学生の保護者その他の当該農業大学校の関係者（当該農業大学校の職員を除く。以下「学校関係者」という。）が行う「学校関係者評価」と、学校運営に関する外部の専門家を中心とした「第三者評価」により実施するものとする。

2 自己評価は、農業大学校の実情に基づき設定した重点目標について、その達成状況や取組の適切さを農業大学校職員が自ら評価するものとする。

3 学校関係者評価は、その自己評価結果について、学校関係者が幅広い視点から評価、指導、助言を行うものとする。

4 第三者評価は、外部の専門家が、自己評価や学校関係者評価の実施状況も踏まえつつ、専門的・客観的視点から評価するものとする。

(自己評価委員会の設置)

第4条 自己評価を推進する組織として、企画調整課内に学校評価担当を置き、その課員で自己評価委員会を組織し、教頭が校長の命を受けて当該委員会を統括する。

(学校関係者評価委員会の設置)

第5条 自己評価に対する評価を実施するため、学校関係者評価委員会を年に2回開催する。

2 校長は、教育に関する理解及び識見を有する学校関係者の中から、学校関係者評価委員の委嘱を行う。

(第三者評価委員会の設置)

第6条 校長は、学校の実情に応じて、教育活動や学校のマネジメント等について専門性を有する者による専門的な評価が必要であると判断した場合、第三者評価委員会を設置することができる。

(重点目標等の設定と公表)

第7条 校長は、毎年度始めに、農業大学校の実情に応じた重点目標を掲げ、農業大学校は、その達成に必要な課題、活動計画、評価指標等を設定し、学校評価計画表その他の資料により速やかに公表するものとする。

(評価結果の設置者への報告)

第8条 校長は、自己評価と学校関係者評価の結果を、年度末までに徳島県知事に報告するものとする。

(評価結果の公表)

第9条 農業大学校は、自己評価及び学校関係者評価の結果を、学校評価総括表その他の資料により速やかに公表するものとする。

(その他)

第10条 この要領に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附則 この要領は、平成26年4月1日から施行する。

(3) 農業・6次産業体験学習等実施要綱

平成19年4月1日制定

最終改正 令和4年4月1日

1 目的

先進的な農業経営及び地域農業の実際を体験すると共に、農業の国際化に対応して、生産、加工、流通販売の高度な知識、技術及び6次産業化に対応した企業的な経営管理能力を養う学習を実施し、優れた担い手等を養成することを目的とする。

2 学習方法

1) 国内学習

(1) 農業体験学習

- ① 対象学生 本科農業生産技術コース学生
(研修に耐えられる体力と学習意欲が旺盛である者)
- ② 学習場所 個人農家、農業法人及び関係機関等
- ③ 受け入れ先の選定
各農業支援センター等の協力を得て、専攻コースの指導方針、進路等を考慮して選定する。
- ④ 学習内容並びに学習時間
別に定める。
- ⑤ 学習期間
別に定める。

(2) 6次産業体験学習

- ① 対象学生 本科6次産業ビジネスコース学生
(研修に耐えられる体力と学習意欲が旺盛である者)
- ② 学習場所 関係企業及び関係団体等
- ③ 受け入れ先の選定
各農業支援センター等の協力を得て、専攻コースの指導方針、進路等を考慮して選定する。
- ④ 学習内容並びに学習時間
別に定める。
- ⑤ 学習期間
別に定める。

(3) コース校外学習

- ① 対象学生 コース所属学生
- ② 学習場所 経営的に優れた農家、農業法人及び関係機関・団体等
- ③ 学習内容
コースでの学習を強化・深化させるもの
- ④ 学習期間
別に定める。

2) 海外学習

- ① 対象学生
就農意欲が旺盛である者
学業成績の優秀な者
海外生活に耐えられる体力、語学力を有する者
生計維持者の同意を得て経費負担ができる者
大学校長が適格者と認めた者
- ② 学習場所
別に定める。
- ③ 学習内容
海外における農業並びに農業政策の状況等
- ④ 学習期間
別に定める。